



AGP カードをインストールの際には、以下の注意事項をよくお読みになり、必ずそれに従ってください。ご使用の AGP カードに“AGP 4X/8X(1.5V)ノッチ”(下図参照)がある場合、AGP カードは AGP 4X/8X(1.5V)であることを確かめてください。



ご注意: VIA PT880 は AGP 2X (3.3V)カードをサポートしていません。これでシステムが正常に起動しないことがあります。AGP 4X/8X (1.5V)カードを差してください。

例 1 : Diamond Vipper V770 ゴールデンフィンガーは 2X/4X モード AGP スロットと互換性を有します。ジャンパー調節により AGP 2X (3.3V)と 4X (1.5V)のモード切替が可能です。このカードの工場出荷時デフォルトは 2X (3.3V)です。このカードのジャンパーを 4X(1.5V)モード設定に切り替えないでインストールすると、GA-8VT880 シリーズマザーボードが正しく動作しない恐れがあります。

例 2 : “Power Color”というグラフィックスカードメーカー製 ATi Rage 128 Pro グラフィックスカードおよび SiS 305 カードの数種はゴールデンフィンガーが 2X/4X モード AGP スロットと互換ですが、サポートするのは 2X (3.3V)のみです。このカードをインストールした場合、GA-8VT880 シリーズマザーボードが正しく動作しない恐れがあります。

注 : Gigabyte's AG32S(G)グラフィックスカードは ATi Rage 128 Pro チップ搭載ですが、AG32S(G)の設計は AGP 4X (1.5V)規格準拠です。それで、AG32S(G)は VIA PT880 搭載のマザーボードで正常に動作します。



- ※ 記載内容の誤り・不適切な表現、誤字脱字など、その結果生じたいかなる損害等に関しても、本書の作者は一切の責任を負いかねます。
- ※ 本書に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。
- ※ マザーボード上のラベルを剥さないでください、これに従わない場合は、本マザーボードの保証が無効にされる場合があります。
- ※ 情報技術の急速な進歩により、本書を出版後、仕様が変更される場合がありますので、ご了承ください。



WARNING: Never run the processor without the heatsink properly and firmly attached. PERMANENT DAMAGE WILL RESULT!

Mise en garde : Ne faites jamais tourner le processeur sans que le dissipateur de chaleur soit fixé correctement et fermement. UN DOMMAGE PERMANENT EN RÉSULTERA !

Achtung: Der Prozessor darf nur in Betrieb genommen werden, wenn der Wärmeableiter ordnungsgemäß und fest angebracht ist. DIES HAT EINEN PERMANENTEN SCHADEN ZUR FOLGE!

Advertencia: Nunca haga funcionar el procesador sin el dissipador de calor instalado correctamente y firmemente. ¡SE PRODUCIRÁ UN DAÑO PERMANENTE!

Aviso: Nunca execute o processador sem o dissipador de calor estar adequado e firmemente conectado. O RESULTADO SERÁ UM DANO PERMANENTE!

警告: 將散热器牢固地安裝到處理器上之前，不要運行處理器。過熱將永遠損壞處理器！

警告: 將散熱器牢固地安裝到處理器上之前，不要運行處理器。過熱將永遠損壞處理器！

경고: 히트싱크를 제대로 또 단단히 부착시키지 않은 채 프로세서를 구동시키지 마십시오. 영구적 고장이 발생합니다!

警告: 永久的な損傷を防ぐため、ヒートシンクを正しくしっかりと取り付けるまでは、プロセッサを動作させないようにしてください。

Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer
(full address)

G.B.T. Technology Trading GmbH
Ausschlagweg 41, 1F, 20537 Hamburg, Germany

declare that the product
(description of the apparatus, system, installation to which it refers)

Mother Board

GA-8VT880/ GA-8VT880-L/ GA-8VT880 Ultra

is in conformity with

(reference to the specification under which conformity is declared)
in accordance with 89/336 EEC-EMC Directive

☐ EN 55011	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of industrial, scientific and medical (ISM) high frequency equipment	☐ EN 61000-3-2* ☒ EN 60555-2	Disturbances in supply systems cause by household appliances and similar electrical equipment "Harmonics"
☐ EN 55013	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of broadcast receivers and associated equipment	☐ EN 61000-3-3* ☒ EN 60555-3	Disturbances in supply systems cause by household appliances and similar electrical equipment "Voltage fluctuations"
☐ EN 55014	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of household electrical appliances, portable tools and similar electrical apparatus	☒ EN 50081-1 ☒ EN 50082-1	Generic emission standard Part 1: Residual commercial and light industry Generic immunity standard Part 1: Residual commercial and light industry
☐ EN 55015	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of fluorescent lamps and luminaries	☐ EN 55081-2	Generic emission standard Part 2: Industrial environment
☐ EN 55020	Immunity from radio interference of broadcast receivers and associated equipment	☐ EN 55082-2	Generic emission standard Part 2: Industrial environment
☒ EN 55022	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of information technology equipment	☐ ENV 55104	Immunity requirements for household appliances tools and similar apparatus
☐ DIN VDE 0855 ☐ part 10 ☐ part 12	Cabled distribution systems; Equipment for receiving and/or distribution from sound and television signals	☐ EN50091-2	EMC requirements for uninterruptible power systems (UPS)
☒ CE marking			



(EC conformity marking)

The manufacturer also declares the conformity of above mentioned product
with the actual required safety standards in accordance with LVD 73/23 EEC

☐ EN 60065	Safety requirements for mains operated electronic and related apparatus for household and similar general use	☐ EN 60950	Safety for information technology equipment including electrical bussiness equipment
☐ EN 60335	Safety of household and similar electrical appliances	☐ EN 50091-1	General and Safety requirements for uninterruptible power systems (UPS)

Manufacturer/Importer

(Stamp)

Date : November 25, 2003

Signature: Timmy Huang
Name: Timmy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T. INC. (U.S.A.)

**Address: 17358 Railroad Street
City of Industry, CA 91748**

Phone/Fax No: (818) 854-9338/ (818) 854-9339

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: GV-8VT880/ GA-8VT880-L/ GA-8VT880 Ultra

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109
(a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any interference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: November 25, 2003

GA-8VT880 シリーズ P4 Titan シリーズマザーボード

ユーザーズマニュアル

Pentium®4 プロセッサマザーボード
改版 1001
12MJ-8VT880U-1001

目次

警告！	4
第 1 章 はじめに	5
特長の概略	5
GA-8VT880 シリーズマザーボードレイアウト	8
ブロック図	9
第 2 章 ハードウェアのインストール手順	11
ステップ 1：中央処理ユニット(CPU)のインストール	12
ステップ 1-1：CPU インストール	12
ステップ 1-2：CPU 冷却ファンのインストール	13
ステップ 2：メモリモジュールのインストール	14
ステップ 3：拡張カードのインストール	17
ステップ 4：リボンケーブル、リード線、電源装置の 接続	18
ステップ 4-1：I/O 後部パネルの紹介	18
ステップ 4-2：コネクタおよびジャンパー設定の紹介	20
第 3 章 BIOS のセットアップ	35
メインメニュー(例：BIOS Ver.:F1)	36
Standard CMOS Features	38
Advanced BIOS Features	41
Integrated Peripherals	43

Power Management Setup.....	48
PnP/PCI Configurations	50
PC Health Status.....	51
Frequency/Voltage Control.....	53
Load Fail-Safe Defaults.....	56
Load Optimized Defaults	57
Set Supervisor/User Password	58
Save & Exit Setup	59
Exit Without Saving	60
 第 4 章 技術情報	 63
BIOS のフラッシュ方法の説明	63
@BIOS 紹介	78
Easy Tune™ 紹介	79
2-/4-/6-チャンネルオーディオ機能紹介	80
Jack-Sensing 紹介	86
UAJ 紹介	88
Xpress Recovery 紹介	90
シリアル ATA BIOS 設定ユーティリティ紹介	93
 第 5 章 付録	 101

警告！



注意

マザーボードと拡張カードには、非常に繊細な集積回路(IC)チップが搭載されています。静電気から IC チップを保護するため、コンピュータを使用する際は必ず以下の注意事項に従ってください。

1. ケース内側を扱う際はコンピュータの電源プラグを抜いてください。
2. コンピュータコンポーネントを取扱う前に、接地リストストラップを着用してください。リストストラップがない場合は、接地物または金属物に両手で触れてください。
3. コンポーネントは端面を持つようにし、IC チップ、リード線、コネクタやその他コンポーネントには触れないようにしてください。
4. システムからコンポーネントを外す際は、必ず、コンポーネントを接地された帯電防止パッド、またはコンポーネント付属のバッグの上に置いてください。
5. マザーボードから ATX 電源コネクタを外す際には、ATX 電源装置がオフになっていることをご確認ください。

シャーシへマザーボードのインストール...

マザーボードに取り付け穴がありますが、これらは基部の穴と合わなくて、スペーサーに取り付けスロットがない場合、心配しないでください。スペーサーは依然として取り付け穴に取り付けることができます。ただ、スペーサーの底部を切りますと、(スペーサーは多少硬いので手を切らないようご注意ください。)これでマザーボードを基部にショートの手配なく、取り付けることができます。場合によっては取り付け穴付近に回路があるため、ネジがマザーボード PCB 表面に触れないよう、プラスチックワッシャーを使用する必要があるかもしれません。この際、ネジが取り付け穴付近の PCB プリント配線回路や部品に触れないようご注意ください。接触するとボードの故障や動作不良を起こす可能性があります。

第1章 はじめに

特長の概略

フォームファクター	30.5cm x 24.4cm ATX フォームファクター、4 層 PCB。
マザーボード	GA-8VT880 シリーズ: GA-8VT880 Ultra / GA-8VT800-L / GA-8VT880
CPU	- Socket 478 Intel® Micro FC-PGA2 Pentium® 4 プロセッサ対応 - Intel® Pentium®4 (Northwood, Prescott)プロセッサをサポート - Intel® Pentium®4 のハイパースレッディングテクノロジーをサポート - Intel Pentium®4 800/533/400 MHz FSB - CPU による 2 次キャッシュ
チップセット	- チップセット VIA PT880 ホスト/AGP/コントローラ - VT8237 I/O コントローラハブ
メモリ	4 個の 184 ピン DDR DIMM ソケット - デュアルチャンネル DDR400/DDR333/DDR266 DIMM をサポート 128MB/256MB/512MB/1GB バッファなし DRAM をサポート - 最大 4GB の DRAM 搭載可能
I/O コントロール	IT8705
スロット	1 個の AGP 3.0 スロットは 8X/4X モードをサポート 5 個の PCI スロットは 33MHz および PCI 2.2 準拠
オンボード IDE	- VIA VT8237 PCI チップセット上の IDE コントローラ 2 個により、IDE HDD/CD-ROM (IDE1, IDE2)さらに PIO, バスマスタ(Ultra DMA33/ATA66/ATA100/ATA133)モードに対応。 - IDE3 および IDE4 は RAID、Ultra ATA133/100 に対応。
オンボード周辺デバイス	1 個のフロッピーポートで容量 360K, 720K, 1.2M, 1.44M および 2.88M の 2 基の FDD をサポート 1 個の平行ポートで通常/EPP/ECP モードをサポート 2 個のシリアルポート(COM A および COM B) 8 個の USB 2.0/1.1 ポート(4 個はリア、4 個はフロント、ケーブルによる) 3 個の IEEE1394 ポート(ケーブルによる) 1 個の IrDA コネクタで赤外線通信サポート 1 個のフロントオーディオコネクタ

つづく.....

◆ GA-8VT880 Ultra 用 * GA-8VT880-L 用

ハードウェアモニタ	• CPU/システムファン回転数検出 • CPU 温度検出 • CPU 温度警告 • システム電圧検出 • CPU/システムファン故障警告 • CPU スマートファン制御(◆)
オンボード LAN (*, ◆)	• Realtek 8110S Gigabit 内蔵(◆) • Built in Realtek 8100C 内蔵(*) • 1 個の RJ45 ポート(*, ◆)
オンボードサウンド	• Realtek ALC658 CODEC (UAJ) • ジャックセンサ機能サポート • ライン出力/ 2 個のフロントスピーカー • ライン入力/ 2 個のリアスピーカー(s/w スイッチによる) • マイク入力/センターおよびサブウーファー(s/w スイッチによる) • SPDIF 出力/SPDIF 入力 • CD 入力/ AUX 入力/ゲームコネクタ
オンボード SATA RAID	• 内蔵 VT8237 • ディスクストライピング(RAID0)およびディスクミラーリング(RAID1)をサポート • UDMA は最大 150MB/sec に対応 • 最大 2 個の SATA デバイスをサポート
オンボード IDE RAID (◆)	• オンボード GigaRAID IT8212F チップセット • データのストライピング(RAID0)およびミラーリング(RAID1)さらにストライピング+ミラーリング(RAID 0 + RAID 1)をサポート • JBOD 機能をサポート • コンカレントデュアル ATA133 IDE コントローラ操作をサポート • HDD 用に ATAPI モードをサポート • IDE バスマスタ操作をサポート • BIOS による ATA133/RAID モード切替をサポート • 起動中に状態およびエラーチェックメッセージを表示 • ミラーリングは自動バックグラウンドリビルドをサポート • オンボード BIOS のコントローラで LBA および 13 個のドライブトランスレーション拡張割り込みに対応

つづく.....

◆ GA-8VT880 Ultra 用 * GA-8VT880-L 用

GA-8VT880 シリーズマザーボード

- 6 -

オンボード IEEE1394	内蔵 VT6306
PS/2 コネクタ	PS/2 キーボードインタフェースおよび PS/2 マウスインタフェース
BIOS	- ライセンス済み AWARD BIOS - デュアル BIOS をサポート(◆) - フェースウィザードをサポート - Q-Flash をサポート
その他の機能	- パスワードによる PS/2 キーボード電源オン - PS/2 マウス電源オン - STR(RAM へのサスペンド) - AC 復帰 - キーボード過電流保護用のポリヒューズ - S3 からの USB キーボード/マウスウェイクアップ - EasyTune 4 をサポート @BIOS をサポート
オーバークロック	- BIOS によるオーバerv電圧(DDR/AGP/CPU) - BIOS によるオーバークロック(DDR/AGP/CPU/PCI)

◆ GA-8VT880 Ultra 用 * GA-8VT880-L 用



注

ハイパースレディング機能に必要な条件:

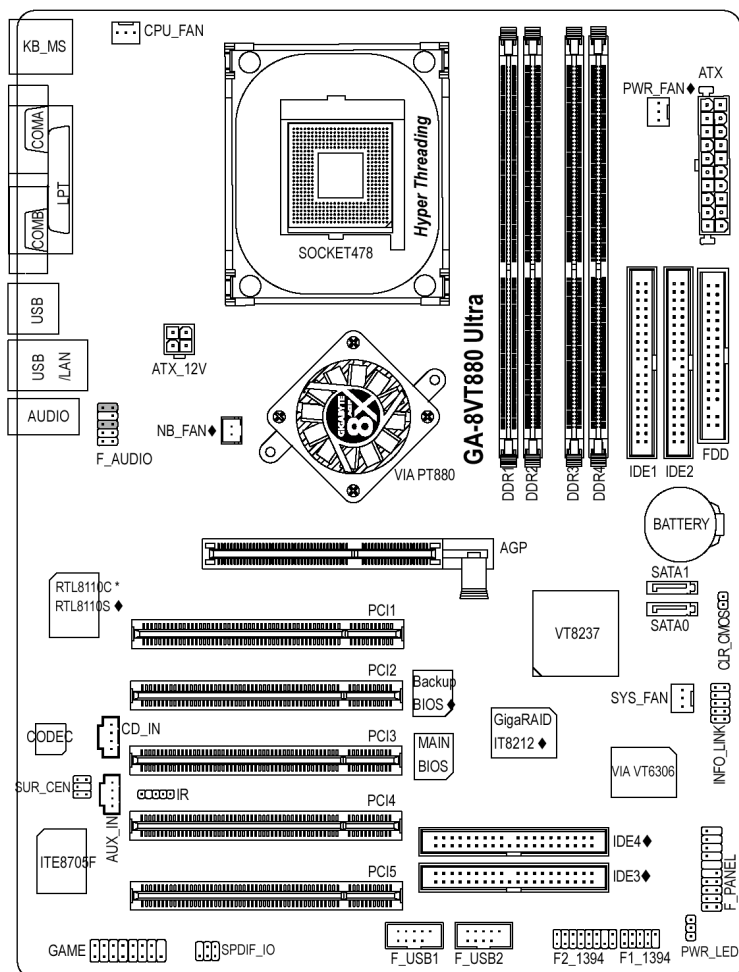
ご使用のコンピュータシステムでハイパースレディングテクノロジーが有効となるには下記のプラットフォームコンポーネント条件を全て満たしている必要があります。

- CPU : ハイパースレディングテクノロジー対応 Intel® Pentium 4 プロセッサ
- チップセット : ハイパースレディングテクノロジー対応 VIA® チップセット
- BIOS : ハイパースレディングテクノロジー対応 BIOS およびその設定が有効になされる
- OS : ハイパースレディングテクノロジー対応の最適化機能を有するオペレーティングシステム



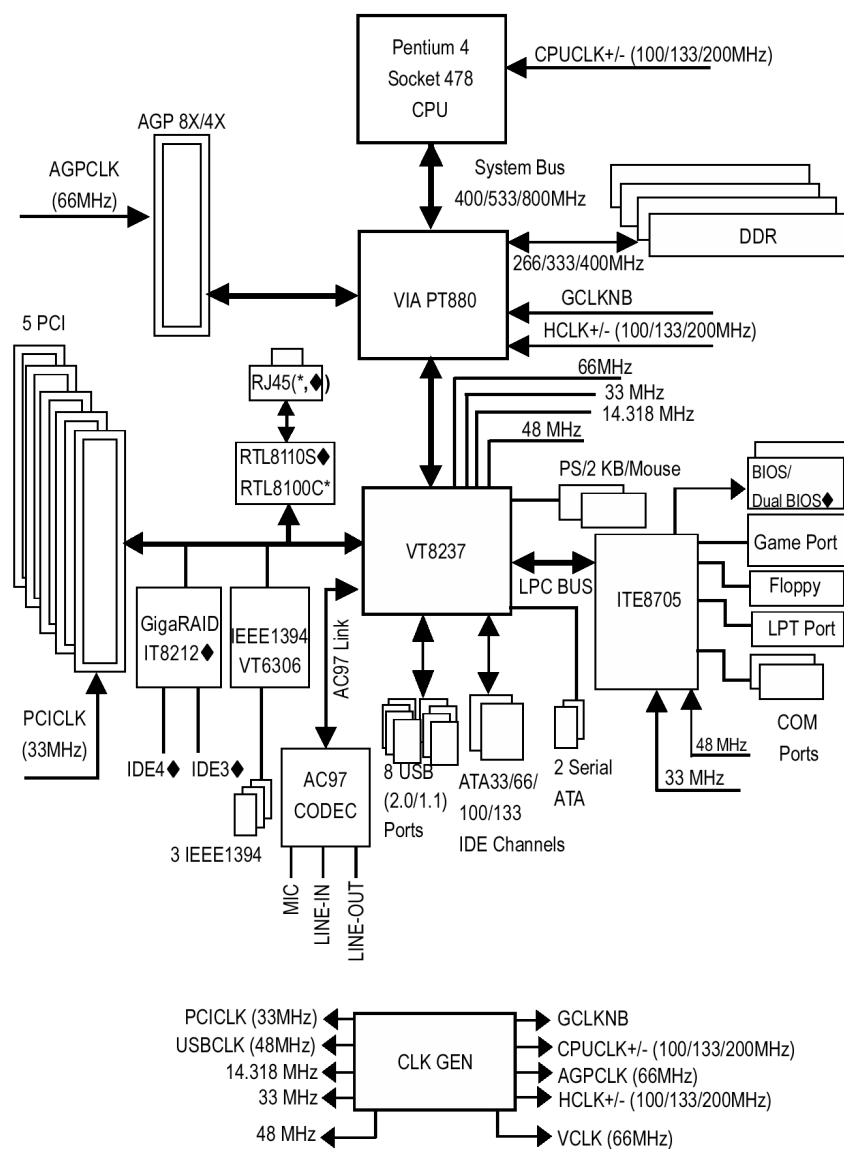
CPU ホストクロックはプロセッサ仕様にしたがって、設定してください。システムバスクロックを CPU の仕様を超えて設定することは、CPU、チップセットおよび周辺デバイスの標準仕様とは異なるバスクロックとなるのでお勧めしません。システムが指定されたバスクロックで正常動作するかどうかは、CPU、チップセット、SDRAM、カードなどのハードウェア設定に依存します。

GA-8VT880 シリーズマザーボードレイアウト



◆ GA-8VT880 Ultra 用 * GA-8VT880-L 用

ブロック図



“◆” GA-8VT880 Ultra 用のみ。 “*” GA-8VT880-L 用のみ。

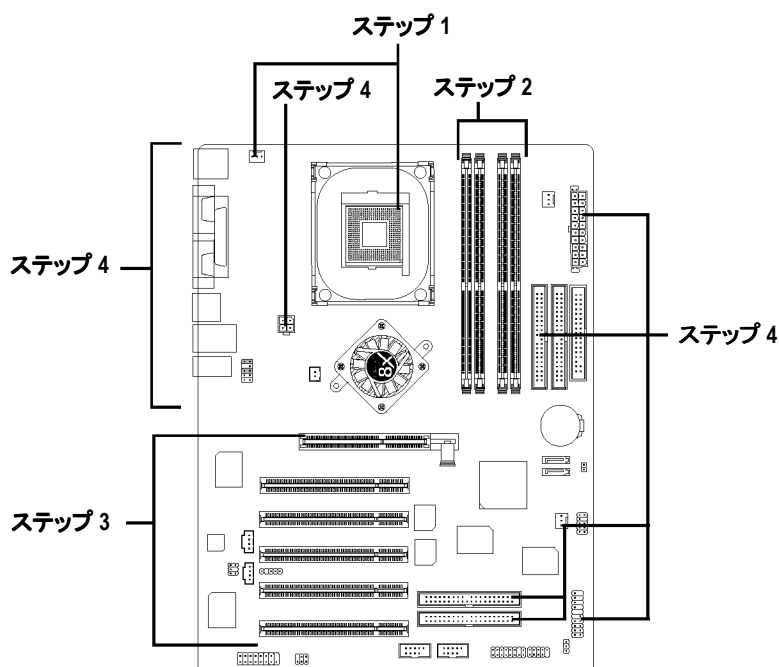
日本語

[illegible]

第2章 ハードウェアのインストール手順

お持ちのコンピュータの設定には下記のステップを完成させる必要があります：

- ステップ 1ー中央処理ユニット(CPU)のインストール
- ステップ 2ーメモリモジュールのインストール
- ステップ 3ー拡張カードのインストール
- ステップ 4ーリボンケーブル、キャビネットのリード線、電源装置の接続



これでハードウェアのインストールは完了しました！
電源装置をオンにするか、電源ケーブルをコンセントに接続します。引き続き、BIOS およびソフトウェアのインストールを行います。

ステップ 1: 中央処理ユニット(CPU)のインストール



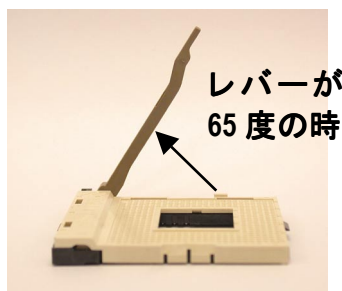
注意

プロセッサのインストールに先立ち、以下の注意事項に注意深く従ってください:

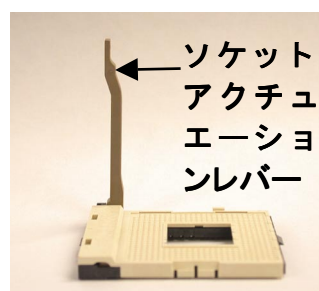
CPU ソケットの 1 番ピンと CPU カット部を一致させないと、インストールに問題が生じます。差す方向を合わせてください。

CPU の形式がマザーボードでサポートされているものであることを確認してください。

ステップ 1-1: CPU インストール



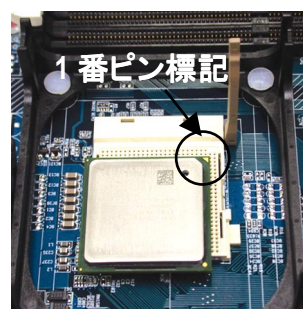
1. レバーが 65 度の時少しきつい感じがしますが、きちんと“カチッ”と音のするまで 90 度に倒します。



2. レバーは 90 度まで引き上げます。



3. CPU 上面図



4. ソケットの 1 番ピンの位置を確認し、CPU 上部の(金色の)カット部の位置を確かめます。それから CPU をソケットに差します。

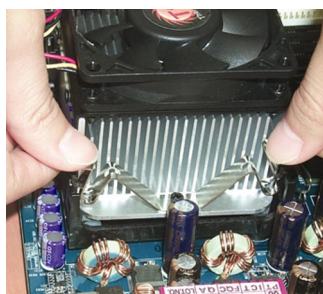
ステップ 1-2: CPU 冷却ファンのインストール



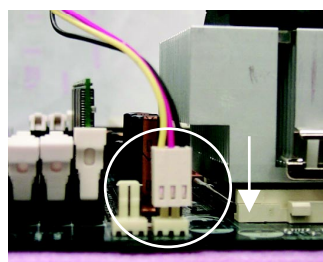
注意

CPU 冷却ファンのインストールに先立ち、以下の注意事項に注意深く従ってください:

1. Intel 公認の冷却ファンをご使用ください。
2. ご使用の CPU とヒートシンクの間にはサーマルテープを貼って放熱効果を高めるようお勧めします。
(サーマルペーストが硬化するため、CPU 冷却ファンが CPU に貼り付く可能性があります。この状態で冷却ファンを外そうとすると、冷却ファンと CPU ソケットを CPU から離すことになり、プロセッサに損傷を与える可能性があります。これを防ぐには、サーマルペーストに代えてサーマルテープを使用するか、冷却ファンを細心の注意を払って外してください。)
3. CPU ファン電源ケーブルが CPU ファンコネクタに接続されていることをご確認ください。これでインストール完了です。
インストール手順の詳細は、お持ちの CPU ファンのユーザーマニュアルをご参照ください。



1. マザーボード上の CPU ソケットに冷却ファン固定用ベースを取り付けます。



2. CPU ファンケーブルが CPU ファンコネクタに接続されていることをご確認ください。これでインストール完了です。

ステップ 2: メモリモジュールのインストール

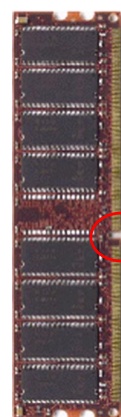
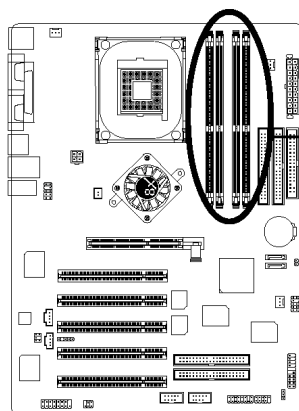


注意

プロセッサおよびヒートシンクのインストールに先立ち、以下の注意事項に注意深く従ってください:

1. RAM_LED が点灯している時に DIMM をインストール・取外ししないでください。
2. DIMM モジュールはノッチにより一方にしか差せないようになってる点にご注意ください。方向を間違えるとインストールに失敗します。差す方向を合わせてください。

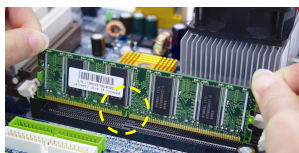
マザーボードには 4 個のデュアルインラインメモリモジュール(DIMM)ソケットが装備されています。BIOS がメモリ形式および容量を自動的に検出します。メモリモジュールをインストールするには、DIMM ソケットに真っ直ぐ押し込みます。DIMM モジュールはノッチにより一方にしか差せないようになっています。メモリ容量はソケットごとに異なっても構いません。



ノッチ

DDR

1. DIMM モジュールは DIMM スロットのノッチにより一方にしか差せないようになっています。
2. DIMM メモリは、DIMM ソケットに真っ直ぐ差し込みます。そして下方に押し込みます。
3. DIMM スロットの両側にあるプラスチックのクリップを閉じて、DIMM モジュールを固定します。DIMM モジュールを取り外すにはインストールと逆の手順で行います。



DDR の紹介

DDR (ダブルデータレート)メモリは、既存の SDRAM のハードウェア構造を基本とした、ハイパフォーマンスで高効率のソリューションで、メモリベンダー、OEM およびシステムインテグレーターにとって採用が容易です。

DDR メモリは、PC の業界に大きな進歩となるソリューションで、既存の SDRAM の構成でありながらメモリ帯域幅を 2 倍にすることで、システムのボトルネックを解消するのに飛躍的な進歩を遂げています。現在では、DDR400 メモリの最大帯域幅 3.2GB/s および DDR400/333/266/200 のメモリの完成したラインというソリューションにより、DDR メモリはサーバー、ワークステーションおよび幅広いデスクトップ PC に適した、高性能で低レイテンシの DRAM サブシステムの構築に最適な選択です。

デュアルチャンネル DDR:

GA-8VT880 シリーズはデュアルチャンネルテクノロジーをサポートしています。

デュアルチャンネルテクノロジーが有効の場合は、メモリバスの帯域幅は本来の 2 倍の最高 6.4GB/s DDR400 として動作します。

GA-8VT880 シリーズには 4 個の DIMM ソケットが装備され、各チャンネルには以下のように 2 個の DIMM が装着されます。

▶▶ チャンネル A: DIMM 1, 2

▶▶ チャンネル B: DIMM 3, 4

説明は下記のとおりです:



注

1. 1個または3個のメモリモジュールがインストールされた場合: デュアルチャンネルテクノロジーは 1 個または 3 個のメモリモジュールがインストールされた場合には動作せず、シングルチャンネルとして動作します。
2. 2個の DDR メモリモジュールがインストール(同一のメモリ容量、同一タイプ)された場合: デュアルチャンネルテクノロジーは 2 個の DDR メモリモジュールがチャンネル A とチャンネル B(DIMM 1 は DIMM 3 と、DIMM 2 は DIMM 4 と対を構成)のそれぞれに装着された場合動作します。ただし 2 個の DDR メモリモジュールが同一のチャンネル(DIMM 1,2 または DIMM 3, 4)に装着された場合は、デュアルチャンネルテクノロジーは動作しません。
3. 3 個のメモリモジュールがインストールされた場合: デュアルチャンネルテクノロジーは、3 個の DDR のインストールでは動作しません。また、それらの部分が検出されません。
4. 4 個のメモリモジュールがインストール(同一容量およびタイプの 2 組の DDR メモリモジュール)された場合: デュアルチャンネルテクノロジーは、2 組の DDR メモリモジュールの DIMM1, 3 へと DIMM1,4 へのインストールで動作します。

下表にはインストールされたメモリの組合せ形式が皆含まれています：
(インストールされたメモリの組合せ形式を使用されるには、BIOS(FORCE Dual/FORCE Single/ Auto)と一致させてください。)

● 図 1:デュアルチャンネルテクノロジー(DS:両面実装, SS:片面実装)

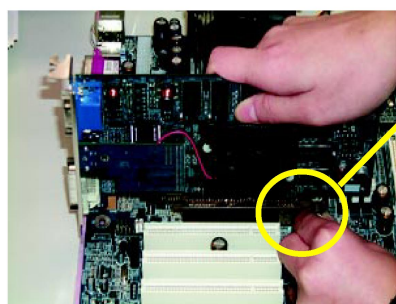
	DIMM 1	DIMM 2	DIMM 3	DIMM 4
2 個のメモリモジュール	DS/SS	X	DS/SS	X
	X	DS/SS	X	DS/SS
4 個のメモリモジュール	DS/SS	DS/SS	DS/SS	DS/SS

● 図 2:シングルチャンネルテクノロジー(DS:両面実装, SS:片面実装)

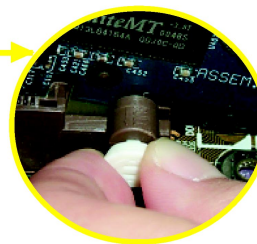
	DIMM 1	DIMM 2	DIMM 3	DIMM 4
1 個のメモリモジュール	DS/SS	X	X	X
	X	DS/SS	X	X
	X	X	DS/SS	X
	X	X	X	DS/SS
2 個のメモリモジュール	DS/SS	DS/SS	X	X
	X	X	DS/SS	DS/SS
	DS/SS	X	X	DS/SS
	X	DS/SS	DS/SS	X

ステップ 3: 拡張カードのインストール

1. 拡張カードのインストールに先立ち、関連した指示説明をお読みください。
2. コンピュータからケースカバー、固定用ネジ、スロットブラケットを外します。
3. マザーボードの拡張スロットに拡張カードを確実に差しします。
4. カードの金属接点面がスロットに確実に収まったことを確認してください。
5. スロットブラケットのネジを戻して、拡張カードを固定します。
6. コンピュータのシャーシカバーを戻します。
7. コンピュータの電源をオンにします。必要であれば BIOS セットアップ から拡張カード対象の BIOS 設定を行います。
8. オペレーティングシステムから関連のドライバをインストールします。



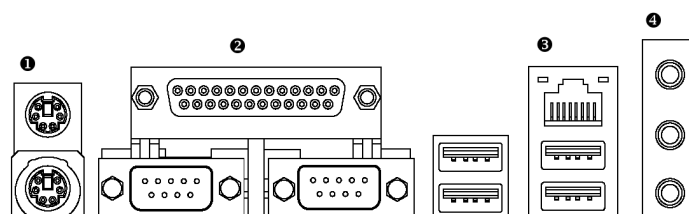
AGP カード



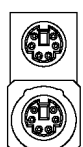
AGP カードのインストール・取外しの際は、AGP スロットの端にある白いバーを静かに引き出してください。AGP カードをオンボードの AGP スロットに合わせ、確実に中に差ししてください。ご使用になる AGP カードが小さな白いバーによってロックされたことを確認してください。

ステップ 4 : リボンケーブル、リード線、電源装置の接続

ステップ 4-1: I/O 後部パネルの紹介



❶ PS/2 キーボードおよび PS/2 マウスコネクタ

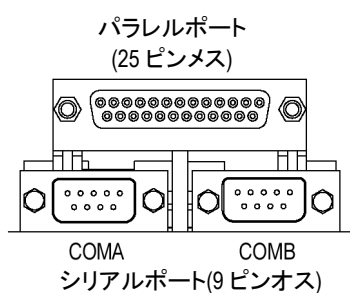


PS/2 マウスコネクタ
(6 ピンメス)

PS/2 キーボードコネクタ
(6 ピンメス)

➤ 当コネクタは標準の PS/2 キーボードおよび PS/2 マウスをサポートしています。

❷ パラレルポートおよびシリアルポート(COM A / COM B)

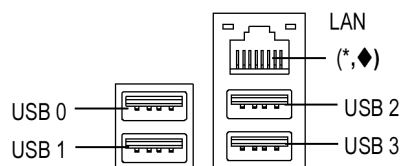


パラレルポート
(25 ピンメス)

COMA COMB
シリアルポート(9 ピンオス)

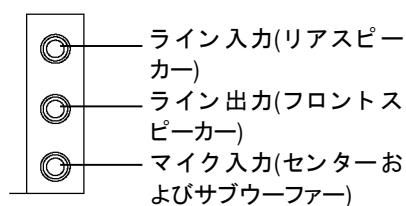
➤ 当コネクタは2個の標準のCOMポートおよび1個のパラレルポートをサポートしています。プリンタなどのデバイスはパラレルポートに接続し、マウスやモデムなどはシリアルポートに接続します。

③ USB / LAN コネクタ



- USB コネクタに USB キーボード、マウス、スキャナー、zip、スピーカーなどを接続する前に、ご使用になるデバイスが標準の USB インタフェースを装備していることをご確認ください。またご使用の OS が USB コントローラをサポートしていることもご確認ください。
ご使用の OS が USB コントローラをサポートしていない場合は、OS ベンダーに利用可能なパッチやドライバの更新についてお問い合わせください。詳細はご使用の OS やデバイスのベンダーにお問い合わせください。

④ オーディオコネクタ

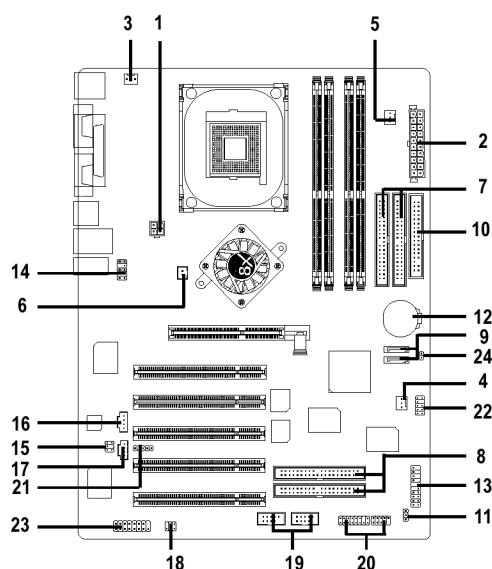


- オンボードオーディオドライバのインストール後、スピーカーはライン出力ジャックに、マイクはマイク入力ジャックに接続できます。
CD-ROM やウォークマンなどはライン入力ジャックに接続できます。
下記にご注意ください：
S/W 切替により、2-/4-/6-チャンネルオーディオ機能が使用可能です。
6-チャンネル機能をご利用になる場合、ハードウェアは2通りの接続方法があります。
方法 1:
“フロントスピーカー”を“ライン出力”に接続します。
“リアスピーカー”を“ライン入力”に接続します。
“センターおよびサブウーファ”を“マイク出力”に接続します。
方法 2:
28 ページを参考に、SUR_CEN ケーブルを最寄の販売店から購入します。



2-/4-/6-チャンネルオーディオのインストール設定に関する詳細は、80 ページをご参照ください。

ステップ 4-2: コネクタおよびジャンパー設定の紹介

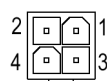
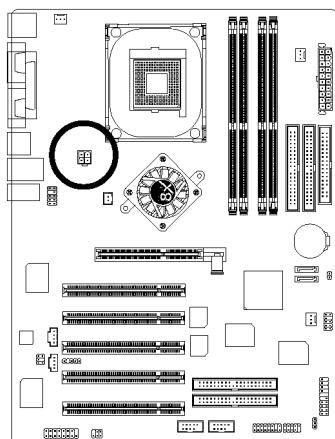


1) ATX_12V	13) F_PANEL
2) ATX	14) F_AUDIO
3) CPU_FAN	15) SUR_CEN
4) SYS_FAN	16) CD_IN
5) PWR_FAN (◆)	17) AUX_IN
6) NB_FAN (◆)	18) SPDIF_IO
7) IDE1/IDE2	19) F_USB1/F_USB2
8) IDE3/IDE4 (◆)	20) F1_1394/F2_1394
9) SATA0/SATA1	21) IR
10) FDD	22) INFO_LINK
11) PWR_LED	23) GAME
12) BATTERY	24) CLR_CMOS

“◆” GA-8VT880 Ultra 用のみ。 “*” GA-8VT880-L 用のみ。

1) ATX_12V(+12V 電源コネクタ)

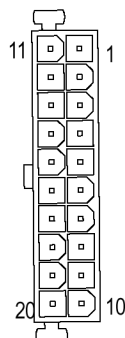
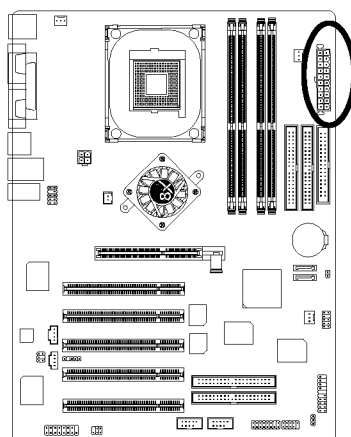
当コネクタ(ATX _12V)から CPU 動作電圧(Vcore)が供給されます。この“ATX _12V コネクタ”が接続されていないと、システムは起動できません。



ピン番号	定義
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V

2) ATX (ATX 電源)

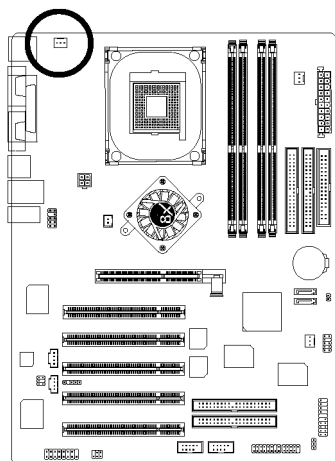
ATX 電源ケーブルおよびその他関連デバイスを確実にマザーボードに接続してからこそ、AC 電源コードを電源装置に接続できます。



ピン番号	定義
1	3.3V
2	3.3V
3	GND
4	VCC
5	GND
6	VCC
7	GND
8	電源装置
9	5V SB (スタンバイ+5V)
10	+12V
11	3.3V
12	-12V
13	GND
14	PS_ON (ソフトオン/オフ)
15	GND
16	GND
17	GND
18	-5V
19	VCC
20	VCC

3) CPU_FAN (CPU ファンコネクタ)

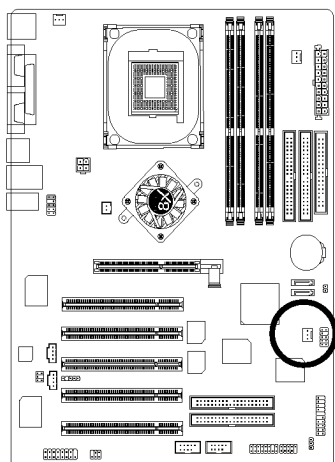
CPU クーラーの適切なインストールは、CPU が異常動作をしたり過熱による損傷を受けたりするのを防止するのに大切である点にご注意ください。CPU ファンコネクタの最大許容電流は 600 mA です。



ピン 番号	定義
1	GND
2	+12V
3	Sense

4) SYS_FAN (システムファンコネクタ)

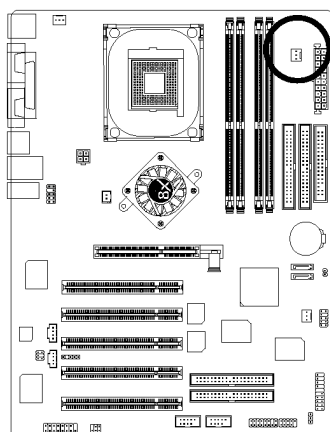
当コネクタにより、システムケース上部の冷却ファンでシステム温度を下げるすることができます。



ピン 番号	定義
1	GND
2	+12V
3	Sense

5) PWR_FAN(電源ファンコネクタ) (◆)

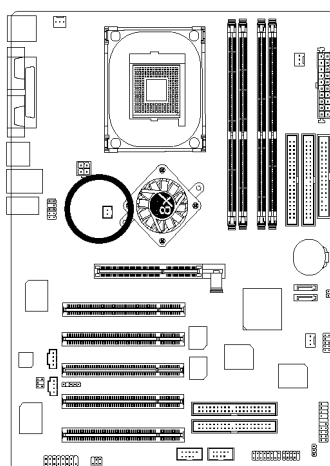
当コネクタにより、システムケース上部の冷却ファンでシステム温度を下げるすることができます。



ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	Sense

6) NB_FAN (チップファンコネクタ) (◆)

間違った方向に接続すると、チップファンは動作しません。チップファンの故障の原因となります。(通常黒いケーブルは接地用 GND です。)

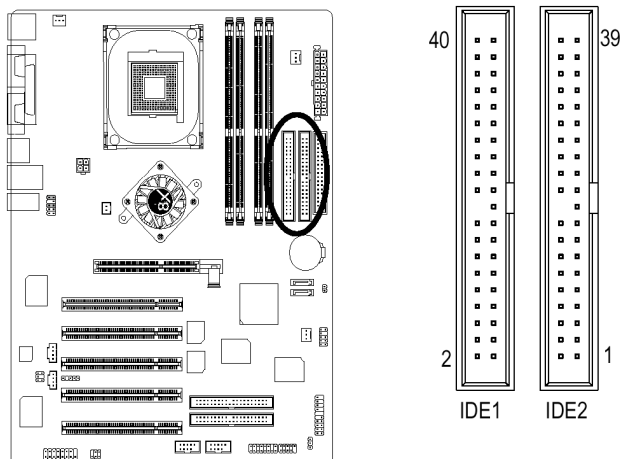


ピン番号	定義
1	VCC
2	GND

“◆” GA-8VT880 Ultra 用のみ。 “**” GA-8VT880-L 用のみ。

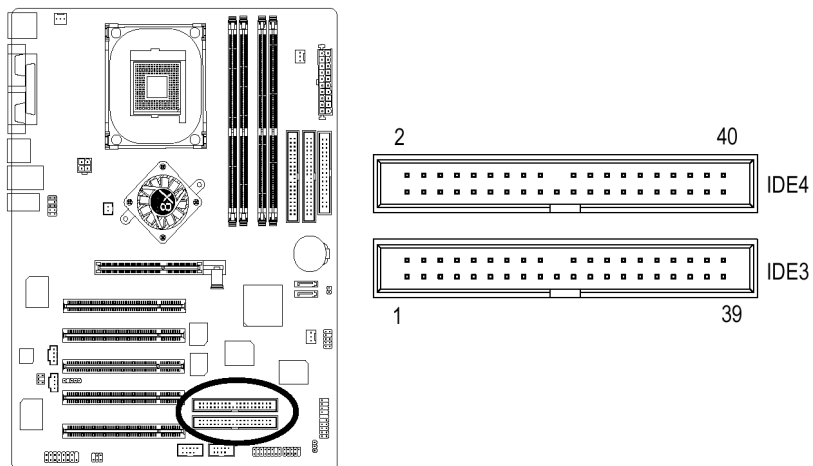
7) IDE1/ IDE2 (IDE1/IDE2 コネクタ)

まずハードディスクを IDE1 に、CD-ROM ドライブを IDE2 に接続してください。リボンケーブルの赤い線の側を 1 番ピンに合わせます。



8) IDE3 / IDE4 (RAID/ATA133、緑のコネクタ) (◆)

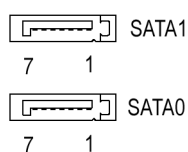
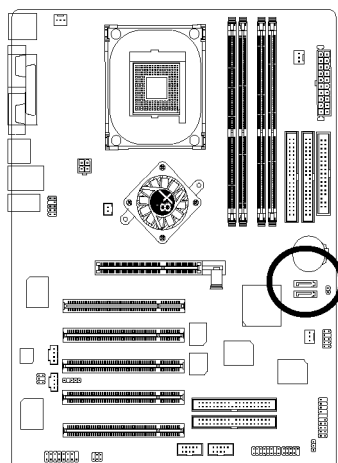
重要なご注意：リボンケーブルの赤い線の側を 1 番ピンに合わせます。IDE3 および IDE4 を使用される場合は、BIOS と一致させてください。(RAID や ATA133 も同様) それから適切なドライバをインストールして正常に動作するようにします。詳細は GigaRAID マニュアルをご参照ください。



“◆” GA-8VT880 Ultra 用のみ。 “*” GA-8VT880-L 用のみ。

9) SATA0 / SATA1 (シリアル ATA コネクタ)

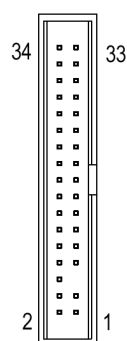
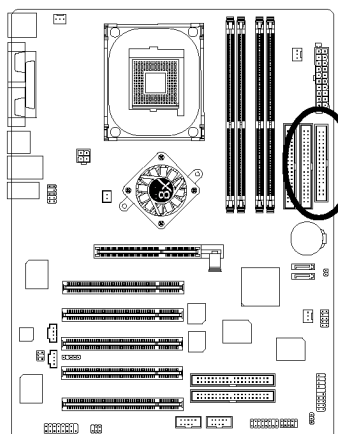
このコネクタにシリアル ATA デバイスが接続でき、最大データ転送速度は 150MB/sec に達します。



ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND

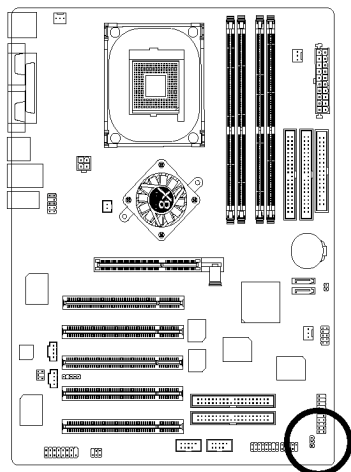
10) FDD(フロッピーコネクタ)

フロッピードライブのリボンケーブルは FDD に接続してください。サポートされているフロッピーディスクのタイプは 360K, 720K, 1.2M, 1.44M および 2.88M バイトです。リボンケーブルの赤い線の側を 1 番ピンに合わせます。



11) PWR_LED

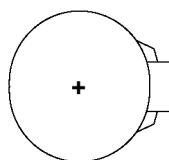
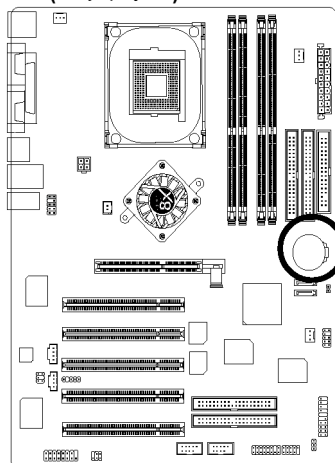
PWR_LED はシステム電源表示ランプに接続してシステムのオン/オフを表示します。システムがサスペンドモードになると点滅します。2 色 LED をご使用の場合は、電源 LED は別の色に点灯します。



1

ピン番号	定義
1	MPD+
2	MPD-
3	MPD-

12) BAT(バッテリー)



注意

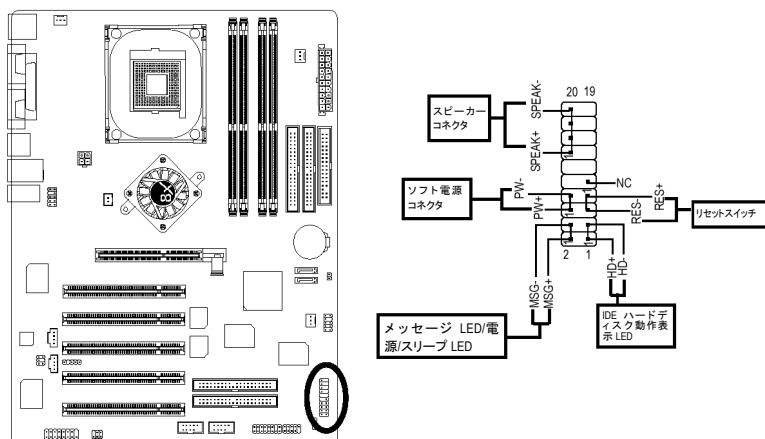
- ❖ バッテリーの交換を間違えると爆発の危険があります。
- ❖ メーカー推奨と同一のタイプの物と交換してください。
- ❖ 使用済みバッテリーはメーカーの指示に従って廃棄してください。

CMOS 内容を消去するには...

1. コンピュータをオフにし、電源コードのプラグを外します。
2. バッテリーを外して、30 秒放置します。
3. バッテリーを入れなおします。
4. 電源コードのプラグを差し、コンピュータをオンにします。

13) F_PANEL (2x10 ピンコネクタ)

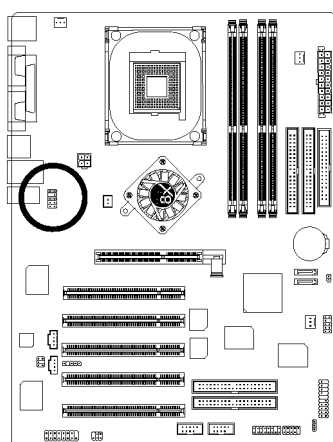
ご使用のケースのフロントパネルにある電源 LED、PC スピーカー、リセットスイッチおよび電源スイッチなどを上記ピン配列にしたがって、F_PANEL に接続します。



HD (IDE ハードディスク動作表示 LED) (青)	ピン 1: LED 正極 ピン 2: LED 負極
SPEAK (スピーカーコネクタ) (アンバー)	ピン 1: VCC (+) ピン 2-ピン 3: NC ピン 4: Data (-)
RES (リセットスイッチ) (緑)	オープン: 通常動作時 ショート: ハードウェアシステムのリセット
PW (ソフトウェア電源コネクタ) (赤)	オープン: 通常動作時 ショート: 電源オン/オフ
MSG (メッセージ LED/電源/スリープ LED) (黄色)	ピン 1: LED 正極 ピン 2: LED 負極
NC(紫)	NC

14) F_AUDIO (F_AUDIO コネクタ)

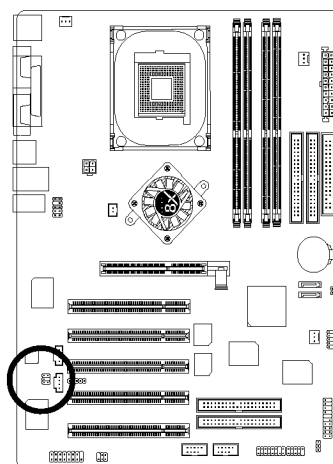
フロントオーディオコネクタを使用する場合は、5-6, 9-10 番ジャンパーを外す必要があります。フロントオーディオヘッダーを利用するには、お持ちのシャーシにフロントオーディオコネクタが装備されている必要があります。また、ケーブルのピン配列がマザーボードヘッダーのピン配列と同じであることをご確認ください。お買い求めのシャーシがフロントオーディオコネクタを装備しているかどうかは、お買い上げ店にお確かめください。サウンド再生にはフロントオーディオコネクタとリアオーディオコネクタが同様に使用可能です。



ピン番号	定義
1	MIC
2	GND
3	REF
4	電源
5	フロントオーディオ(R)
6	リアオーディオ(R)
7	予備
8	ピンなし
9	フロントオーディオ(L)
10	リアオーディオ(L)

15) SUR_CEN

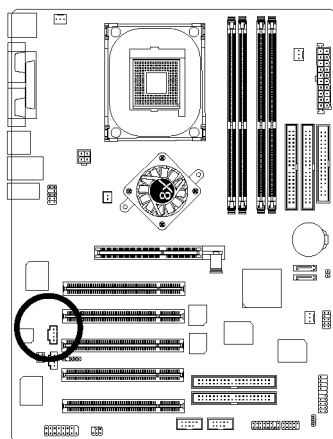
オプション装備の SUR_CEN ケーブルは最寄の販売店にお問い合わせ下さい。



ピン番号	定義
1	SUR OUTL
2	SUR OUTR
3	GND
4	ピンなし
5	CENTER_OUT
6	BASS_OUT

16) CD_IN (CD 入力, 黒)

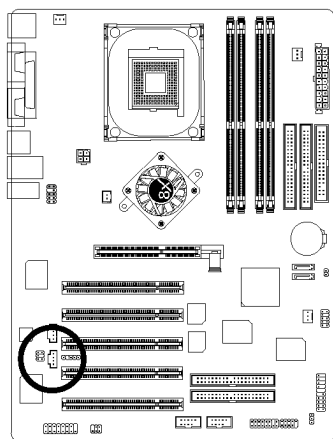
CD-ROM または DVD-ROM のオーディオ出力はこのコネクタに接続します。



ピン 番号	定義
1	CD-L
2	GND
3	GND
4	CD_R

17) AUX_IN (AUX 入力コネクタ)

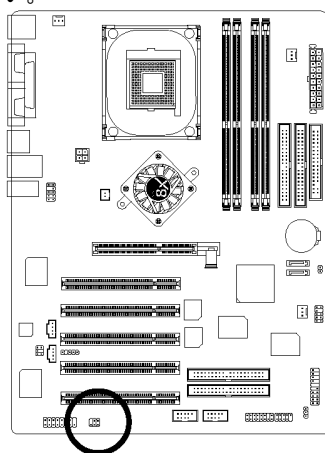
他のデバイス(例えば PCI TV チューナーの音声出力)をコネクタに接続してください。



ピン 番号	定義
1	AUX-L
2	GND
3	GND
4	AUX_R

18) SPDIF_IO (SPDIF 入出力)

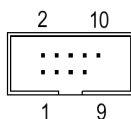
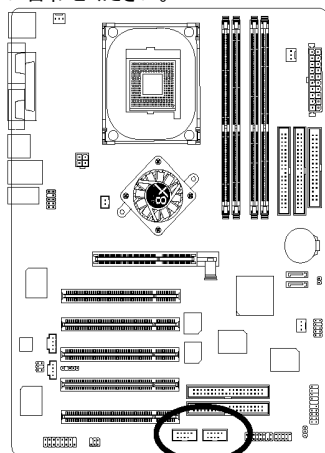
SPDIF 出力はデジタルオーディオを外部スピーカーに、AC3 圧縮データを外部ドルビーデジタルデコーダーに出力できます。この機能はお持ちのステレオ装置がデジタル入力機能を装備している場合のみ使用可能です。SPDIF 入力機能はご使用の装置がデジタル出力機能を装備している場合のみ使用可能です。SPDIF_IO コネクタの極性にご注意ください。SPDIF_IO ケーブルの接続にはピン配列をご確認ください。ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプション装備の SPDIF_IO ケーブルのお求めには地元の販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	VCC
2	ピンなし
3	SPDIF
4	SPDIFI
5	GND
6	GND

19) F_USB1 / F_USB2 (フロント USB コネクタ, 黄色)

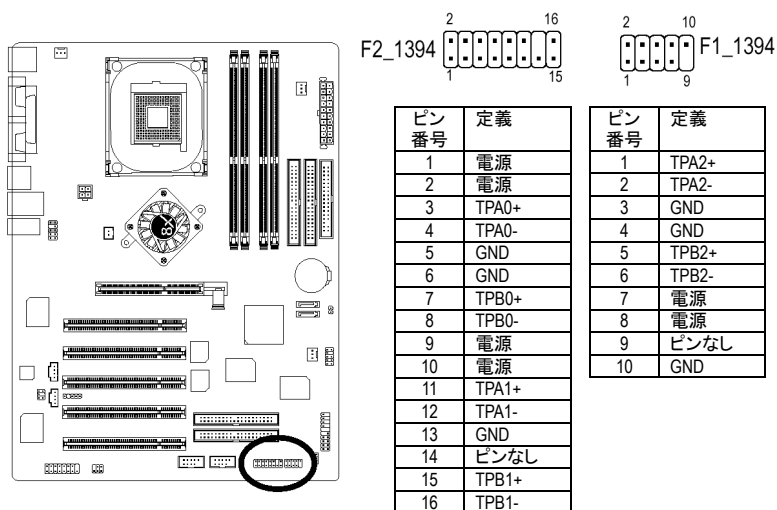
F_USB コネクタの極性にご注意ください。F_USB ケーブルの接続にはピン配列をご確認ください。ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプション装備の F_USB ケーブルのお求めには地元の販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	電源
2	電源
3	USB0 DX-/USB6 DX-
4	USB1 Dy-/USB7 Dy-
5	USB0 DX+/USB6 DX+
6	USB1 Dy+/USB7 Dy+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC

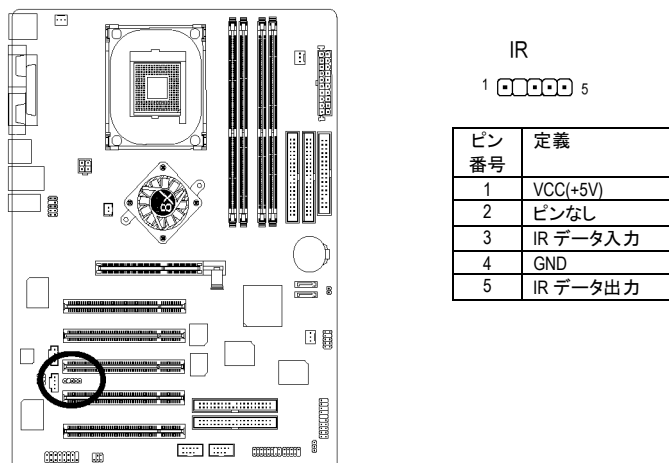
20) F1_1394 / F2_1394 (フロント IEEE1394 コネクタ)

電気電子学会で制定されたシリアルインタフェース規格で、高速転送、広帯域、およびホットプラグを特徴としています。IEEE1394 コネクタの極性にご注意ください。IEEE1394 ケーブルの接続にはピン配列をご確認ください。ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプション 装備の IEEE1394 ケーブルのお求めには地元の販売店にお問い合わせください。



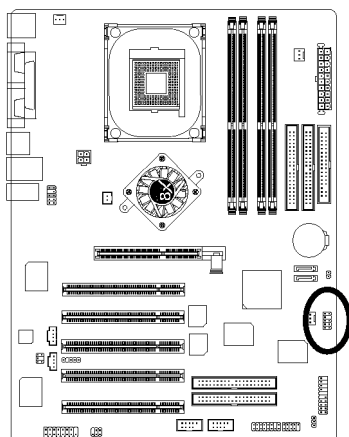
21) IR

IR デバイスの 1 番ピンとコネクタの 1 番ピン側が合っているかご確認ください。オンボードの IR 機能を使用するには、オプション 装備の IR モジュールの購入が必要です。IR コネクタの極性にご注意ください。オプション 装備の IR ケーブルのお求めには地元の販売店にお問い合わせください。



22) INFO_LINK

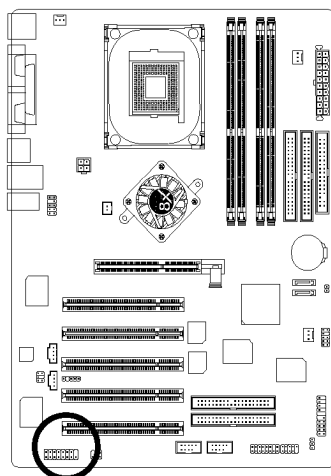
このコネクタにより、外部デバイスを接続して拡張機能を付加できます。外部デバイスのケーブルを接続の際は、ピン配列にご注意ください。オプション装備の外部デバイスケーブルについては最寄の販売店にお問い合わせください。



ピン番号	定義
1	SMBCLK
2	VCC
3	SMBDATA
4	GPIO
5	GND
6	GND
7	ピンなし
8	NC
9	+12V
10	+12V

23) GAME (ゲームコネクタ)

このコネクタはジョイスティック、MIDI キーボードおよびその他関連オーディオデバイスをサポートしています。

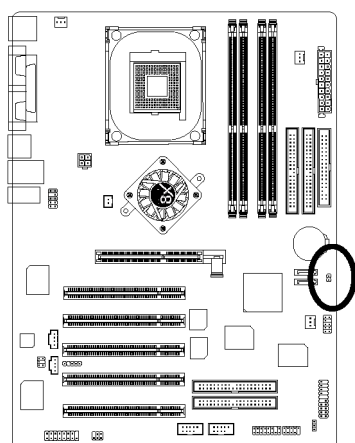


ピン番号	定義
1	VCC
2	GRX1_R
3	GND
4	GPSA2
5	VCC
6	GPX2_R
7	GPY2_R
8	MSI_R
9	GPSA1
10	GND
11	GPY1_R
12	VCC
13	GPSB1
14	MSO_R
15	GPSB2
16	ピンなし

24) CLR_CMOS

このジャンパーにより、CMOS データをクリアしてデフォルト値に復元できます。

デフォルトではジャンパーの不適切な使用を防ぐ“シャンター(shunter)”はありません。
CMOS のクリアには一時的に 1-2 番ピンをショートさせます。



1  オープン: 通常

1  1-2 ショート: CMOS クリア

日本語

[illegible]

第 3 章 BIOS のセットアップ

BIOS のセットアップでは BIOS セットアッププログラムの概要を説明します。プログラムにより、ユーザーは基本システム設定を変更できます。このタイプのデータはバッテリーバック(battery-backed)付き CMOS RAM に保存されるので、電源をオフにしてもセットアップデータは保たれます。

セットアップの起動

コンピュータをオンにし、すぐにを押すと、セットアップが起動されます。BIOS の詳細設定が必要な場合は、“Advanced BIOS”設定メニューに移ってください。Advanced BIOS 設定メニューは BIOS 画面で“Ctrl+F1”キー操作で表示されます。

制御用キー

<↑>	前の項目に戻る
<↓>	次の項目に進む
<←>	左側の項目に移る
<→>	右側の項目に移る
Enter	項目の選択
<Esc>	メインメニュー - CMOS Status Page Setup Menu と Option Page Setup Menu を変更せずに終了-現在のページを終了し、メインメニューに戻る
<+/PgUp>	数値を増加または変更
<-/PgDn>	数値を減少または変更
<F1>	一般のヘルプ、Status Page Setup Menu および Option Page Setup Menu のみを対象
<F2>	項目のヘルプ
<F3>	予備
<F4>	予備
<F5>	CMOS を前の CMOS 設定に戻す、Option Page Setup Menu のみを対象
<F6>	BIOS デフォルトテーブルから安全なデフォルト CMOS 設定値をロード
<F7>	最適デフォルト値をロード
<F8>	Q-Flash 機能
<F9>	システム情報
<F10>	CMOS 変更を全て保存、メインメニューのみを対象

ヘルプの表示

メインメニュー

ハイライト表示された設定機能のオンライン説明がスクリーン下部に表示されます。

status page setup メニュー/Option Page Setup メニュー

F1 を押すとハイライト表示された項目に使用可能なキーおよび可能な選択内容が小さなウィンドウに表示されます。ヘルプウィンドウを閉じるには<Esc>を押します。

メインメニュー(例: BIOS Ver.:F1)

Award BIOS CMOS セットアップユーティリティを起動すると、画面にメインメニュー(図 1)が表示されます。メインメニューから設定機能 8 項目および 2 種類が選ばれます。矢印キーで項目を選び<Enter>を押して決定、またはサブメニューに進みます。

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア	
▶Standard CMOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶Advanced BIOS Features	Load Optimized Defaults
▶Integrated Peripherals	Set Supervisor Password
▶Power Management Setup	Set User Password
▶PnP/PCI Configurations	Save & Exit Setup
▶PC Health Status	Exit Without Saving
▶Frequency/Voltage Control	
ESC:Quit	↑↓→←:Select Item
F8: Q-Flash	F10:Save & Exit Setup
Time, Date, Hard Disk Type...	

図 1: メインメニュー



必要な設定項目が見当たらない場合は、“Ctrl+F1”を押して詳細設定を展開してください。

- **Standard CMOS Features**
この設定ページには標準互換 BIOS 内の項目全部が含まれています。
- **Advanced BIOS Features**
この設定ページには Award 専用拡張機能の項目全部が含まれています。

- **Integrated Peripherals**
この設定ページにはオンボードペリフェラル項目が全て含まれています。
- **Power Management Setup**
この設定ページには節電機能関連項目が全て含まれています。
- **PnP/PCI Configurations**
この設定ページには PCI およびプラグアンドプレイ ISA リソースの設定項目が全て含まれています。
- **PC Health Status**
この設定ページは、システムにより自動検出された温度、電圧、ファン 速度が表示されます。
- **Frequency/Voltage Control**
この設定ページは CPU クロックおよびクロックレシオを調節するものです。
- **Load Fail-Safe Defaults**
Fail-Safe Defaults はシステムが安定動作する設定値を表示します。
- **Load Optimized Defaults**
Optimized Defaults はシステムが最良の性能で動作する設定値を表示します。
- **Set Supervisor password**
パスワードの変更、設定、無効化を行います。これでシステムおよびセットアップ、またはセットアップのみへのアクセスを制限します。
- **Set User password**
パスワードの変更、設定、無効化を行います。これでシステムへのアクセスを制限します。
- **Save & Exit Setup**
CMOS 設定値を CMOS に保存し、セットアップを終了します。
- **Exit Without Saving**
CMOS 設定値を全てキャンセルし、セットアップを終了します。

Standard CMOS Features

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

Standard CMOS Features

Date (mm:dd:yy)	Wed, Jan 1 2003	Item Help
Time (hh:mm:ss)	22:31:24	Menu Level ►
► IDE Primary Master	[None]	Change the day, month, year
► IDE Primary Slave	[None]	
► IDE Secondary Master	[None]	<Week>
► IDE Secondary Slave	[None]	Sun. to Sat.
Drive A	[1.44M, 3.5 in.]	<Month>
Drive B	[None]	Jan. to Dec.
Floppy 3 Mode Support	[Disabled]	
Halt On	[All, But Keyboard]	<Day>
		1 to 31 (or maximum allowed in the month)
Base Memory	640K	
Extended Memory	130048K	<Year>
Total Memory	131072K	1999 to 2098
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 2: Standard CMOS Features

☞ Date

日付のフォーマットは<曜日>、<月>、<日>、<年>です。

- ▶▶ Week 日曜から土曜までの曜日は BIOS で設定され、表示用のみです。
- ▶▶ Month 月は 1 月から 12 月までです。
- ▶▶ Day 日は 1 から 31(またはその月に存在する日数)までです。
- ▶▶ Year 年は 1999 から 2098 までです。

🔗 Time

時刻のフォーマットは<時><分><秒>です。時刻は 24 時間制です。例えば午後 1 時は 13:00:00 となります。

🔗 IDE Primary Master, Slave / IDE Secondary Master, Slave

この項目はコンピュータにインストールされたドライブ C から F までのハードディスクのタイプを検出します。タイプはオートとマニュアルの 2 種類があります。マニュアルタイプはユーザー定義可能です。オートタイプは HDD のタイプを自動検出します。

ご使用のドライブの仕様はドライブテーブルと一致している必要があります。この項目で不正確なデータを入力すると、ハードディスクは正常に動作しません。

ユーザータイプを選択すると、以下の項目の入力を求められます。必要なデータをキーボード入力し、<Enter>を押します。これらの情報はご使用のハードディスクベンダーまたはシステムメーカーからの説明書に載せられています。

- ▶▶ CYLS. シリンダ数
- ▶▶ HEADS ヘッド数
- ▶▶ PRECOMP ライト・プリコンペンセーション
- ▶▶ LANDZONE ランディングゾーン
- ▶▶ SECTORS セクタ数

ハードディスクがインストールされていない場合は NONE を選び、<Enter>を押します。

🔗 ドライブ A/ドライブ B

この項目はコンピュータにインストールされたフロッピードライブ A またはドライブ B のタイプを設定します。

- ▶▶ None フロッピードライブはインストールされていません
- ▶▶ 360K, 5.25 in. 5.25 インチ PC 内蔵標準ドライブ; 容量は 360K バイト
- ▶▶ 1.2M, 5.25 in. 5.25 インチ AT タイプ高密度ドライブ; 容量は 1.2M バイト(3 モードが有効の場合は 3.5 インチ)
- ▶▶ 720K, 3.5 in. 3.5 インチ両面ドライブ; 容量は 720K バイト
- ▶▶ 1.44M, 3.5 in. 3.5 インチ両面ドライブ; 容量は 1.44M バイト
- ▶▶ 2.88M, 3.5 in. 3.5 インチ両面ドライブ; 容量は 2.88M バイト

☞ Floppy 3 Mode Support (for Japan Area)

- ▶▶ Disabled 通常のフロッピードライブ。(デフォルト値)
- ▶▶ Drive A ドライブ A は 3 モードフロッピードライブです。
- ▶▶ Drive B ドライブ B は 3 モードフロッピードライブです。
- ▶▶ Both ドライブ A および B は 3 モードフロッピードライブです。

☞ Halt on

この項目で電源投入時にエラー検出があった場合に、コンピュータを停止するかどうかを決定します。

- ▶▶ NO Errors システム起動時にエラー検出があっても表示されても、続行します。
- ▶▶ All Errors BIOS が重大ではないエラーを検出しても、システムは停止します。
- ▶▶ All, But Keyboard システム起動はキーボードエラーでは続行しますが、それ以外のエラーでは停止します。(デフォルト値)
- ▶▶ All, But Diskette システム起動はディスクエラーでは続行しますが、それ以外のエラーでは停止します。
- ▶▶ All, But Disk/Key システム起動はキーボードエラーまたはディスクエラーでは続行しますが、それ以外のエラーでは停止します。

☞ Memory

この項目は表示のみで、BIOS の POST (電源起動時セルフテスト)によって判断されます。

Base Memory

BIOS の POST はシステムにインストールされているベース(コンベンショナル)メモリ容量を検出します。

ベースメモリ容量は通常 512 K 搭載のマザーボードではシステム用に 512 K で、640 K 以上搭載のマザーボードではシステム用に 640 K となります。

Extended Memory

BIOS は POST 中に拡張メモリ容量を検出します。これは CPU メモリアドレスマップ上で 1M バイト以上に位置する容量です。

Advanced BIOS Features

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

Advanced BIOS Features

First Boot Device	[Floppy]	Item Help
Second Boot Device	[HDD-0]	Menu Level ►
Third Boot Device	[CD-ROM]	
x SATA/RAID/SCSI Boot Order	SCSI	
Password Check	[Setup]	
# CPU Hyper-Threading	[Enabled]	
Flexible AGP 8X	[Auto]	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 3: Advanced BIOS Features

“#”ハイパースレッディングテクノロジー対応のIntel Pentium 4プロセッサが搭載されている場合は、システムにより自動検出されます。

First / Second / Third Boot Device

- ▶▶ Floppy 起動用デバイスの優先順位でフロッピーを指定します。
- ▶▶ LS120 起動用デバイスの優先順位で LS120 を指定します。
- ▶▶ HDD-0~3 起動用デバイスの優先順位で HDD-0~3 を指定します。
- ▶▶ SCSI 起動用デバイスの優先順位で SCSI を指定します。
- ▶▶ CDROM 起動用デバイスの優先順位で CDROM を指定します。
- ▶▶ ZIP 起動用デバイスの優先順位で ZIP を指定します。
- ▶▶ USB-FDD 起動用デバイスの優先順位で USB-FDD を指定します。
- ▶▶ USB-ZIP 起動用デバイスの優先順位で USB-ZIP を指定します。
- ▶▶ USB-CDROM 起動用デバイスの優先順位で USB-CDROM を指定します。
- ▶▶ USB-HDD 起動用デバイスの優先順位で USB-HDD を指定します。
- ▶▶ LAN 起動用デバイスの優先順位で LAN を指定します。
- ▶▶ Disabled 起動用デバイスの優先順位で無効を指定します。

🔗 SCSI /SATA/RAID Boot Order

この項目でシリアル ATA、RAID または SCSI デバイスの起動順序を指定します。

- ▶▶ SCSI 起動用デバイスの優先順位で PCI SCSI を指定します。
- ▶▶ RAID 起動用デバイスの優先順位で RAID を指定します。
- ▶▶ SATA 起動用デバイスの優先順位でシリアル ATA を指定します。

🔗 Password Check

- ▶▶ System プロンプト時に正しいパスワードが入力されない場合は、システムは起動せず、セットアップ画面も表示できません。
- ▶▶ Setup プロンプト時に正しいパスワードが入力されない場合は、システムは起動しますが、セットアップ画面は表示できません。(デフォルト値)

🔗 CPU Hyper-Threading

- ▶▶ Enabled CPU のハイパースレッディング機能を有効にします。この機能はマルチプロセッサモードをサポートするオペレーティングシステムでのみ動作する点にご注意ください。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled CPU ハイパースレッディングを無効にします。

🔗 Flexible AGP 8X

- ▶▶ Auto AGP の互換性および安定性にしたがって、AGP 転送モードを自動設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ 8X AGP カードが 8X モード対応の場合は AGP 転送モードを常に 8X と設定します。
- ▶▶ 4X AGP カードの対応モードを問わず、AGP 転送モードを常に 4X と設定します。

Integrated Peripherals

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

Integrated Peripherals

IDE DMA transfer access	[Enabled]	Item Help
On-Chip IDE Channel 0	[Enabled]	Menu Level ►
On-Chip IDE Channel 1	[Enabled]	If a hard disk
OnChip Serial ATA	[Enabled]	controller card is
AC97 Audio	[Auto]	used, set at Disable
USB 1.1 Controller	[Enabled]	
USB 2.0 Controller	[Enabled]	[Enabled]
USB Keyboard Support	[Disabled]	Enable on-chip IDE
USB Mouse Support	[Disabled]	Channel
Onboard H/W LAN ◆*	[Enabled]	
Onboard H/W 1394	[Enabled]	[Disabled]
Onboard H/W ATA/RAID◆	[Enabled]	Disable on-chip IDE
GigaRAID Function ◆	[RAID]	Channel
Onboard LAN Boot ROM◆	[Disabled]	
Onboard Serial Port 1	[3F8/IRQ4]	
Onboard Serial Port 2	[2F8/IRQ3]	
UART Mode Select	[Normal]	
xUR2 Duplex Mode	Half	
Onboard Parallel Port	[378/IRQ7]	
Parallel Port Mode	[SPP]	
Game Port Address	[201]	
Midi Port Address	[Disabled]	
Midi Port IRQ	[10]	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help		
F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 4: Integrated Peripherals

☞ IDE DMA transfer access

- ▶ Enabled IDE UDMA を自動検出します。
- ▶ Disabled UDMA 機能を無効にします。(デフォルト値)

◆ GA-8VT880 Ultra用 * GA-8VT880-L用

🔓 On-Chip IDE Channel 0

- ▶▶ Enabled オンボードのプライマリチャンネル IDE のポートを有効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled オンボードのプライマリチャンネル IDE のポートを無効にします。

🔓 On-Chip IDE Channel 1

- ▶▶ Enabled オンボードのセカンダリチャンネル IDE のポートを有効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled オンボードのセカンダリチャンネル IDE のポートを無効にします。

🔓 On-Chip Serial ATA

- ▶▶ Enabled VT8237 のシリアル ATA サポートを有効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled VT8237 のシリアル ATA サポートを無効にします。

🔓 AC97 Audio

- ▶▶ Auto オンボードの AC'97 オーディオ 機能を有効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

🔓 USB 1.1 Controller

- ▶▶ Enabled USB 1.1 コントローラを有効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled USB 1.1 コントローラを無効にします。

🔓 USB 2.0 Controller

オンボードの USB 2.0 機能を使用されない場合は、この機能を無効にできます。

- ▶▶ Enabled USB 2.0 コントローラを有効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled USB 2.0 コントローラを無効にします。

🔓 USB Keyboard Support

- ▶▶ Enabled USB キーボードサポートを有効にします。
- ▶▶ Disabled USB キーボードサポートを無効にします。(デフォルト値)

🔓 USB Mouse Support

- ▶▶ Enabled USB マウスサポートを有効にします。
- ▶▶ Disabled USB マウスサポートを無効にします。(デフォルト値)

☞ Onboard H/W LAN *, ◆

- ▶▶ Enabled オンボード LAN 機能を自動検知します。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

☞ Onboard H/W 1394

- ▶▶ Enabled オンチップ 1394 機能を自動検知します。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

☞ Onboard H/W ATA/RAID ◆

- Enabled GigaRAID チップ機能を有効にします。(デフォルト値)
- Disabled この機能を無効にします。

☞ GigaRAID Function ◆

- ▶▶ RAID RAID としてオンボードの GigaRAID を選択します。(デフォルト値)
- ▶▶ ATA ATA としてオンボードの GigaRAID を選択します。

☞ Onboard LAN Boot ROM ◆

この機能で、オンボード LAN チップのブート ROM を起動するかどうか設定します。

- ▶▶ Enabled オンボード LAN チップ機能を有効にします。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)

☞ Onboard Serial Port 1

- ▶▶ Auto BIOS は自動的に 1 番ポートアドレスを設定します。
- ▶▶ 3F8/IRQ4 オンボードシリアルポート 1 番を有効にし、アドレスを 3F8 に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ 2F8/IRQ3 オンボードシリアルポート 1 番を有効にし、アドレスを 2F8 に設定します。
- ▶▶ 3E8/IRQ4 オンボードシリアルポート 1 番を有効にし、アドレスを 3E8 に設定します。
- ▶▶ 2E8/IRQ3 オンボードシリアルポート 1 番を有効にし、アドレスを 2E8 に設定します。
- ▶▶ Disabled オンボードシリアルポート 1 番を無効にします。

◆ GA-8VT880 Ultra 用 * GA-8VT880-L 用

🔗 Onboard Serial Port 2

- ▶▶ Auto BIOS は自動的に 2 番ポートアドレスを設定します。
- ▶▶ 3F8/IRQ4 オンボードシリアルポート 2 番を有効にし、アドレスを 3F8 に設定します。
- ▶▶ 2F8/IRQ3 オンボードシリアルポート 2 番を有効にし、アドレスを 2F8 に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ 3E8/IRQ4 オンボードシリアルポート 2 番を有効にし、アドレスを 3E8 に設定します。
- ▶▶ 2E8/IRQ3 オンボードシリアルポート 2 番を有効にし、アドレスを 2E8 に設定します。
- ▶▶ Disabled オンボードシリアルポート 2 番を無効にします。

🔗 UART Mode Select

この項目でオンボード I/O チップの赤外線(IR)機能の設定を行います。

- ▶▶ Normal オンボード I/O チップ UART をノーマルモードに設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ IrDA オンボード I/O チップ UART を IrDA モードに設定します。
- ▶▶ ASKIR オンボード I/O チップ UART を ASKIR モードに設定します。

🔗 UR2 Duplex Mode

この項目で IR モードを選択します。

この機能は“UART モード選択”が“ノーマル”や“SCR”以外のときに有効です。

- ▶▶ Half IR 機能半二重通信。(デフォルト値)
- ▶▶ Full IR 機能全二重通信。

🔗 Onboard Parallel port

- ▶▶ 378/IRQ7 オンボード LPT ポートを有効にし、アドレスを 378/IRQ7 に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ 278/IRQ5 オンボード LPT ポートを有効にし、アドレスを 278/IRQ5 に設定します。
- ▶▶ Disabled オンボード LPT ポートを無効にします。
- ▶▶ 3BC/IRQ7 オンボード LPT ポートを有効にし、アドレスを 3BC/IRQ7 に設定します。

🔗 Parallel Port Mode

- ▶▶ SPP パラレルポートを標準パラレルポートとして使用します。(デフォルト値)
- ▶▶ EPP パラレルポートを拡張パラレルポートとして使用します。
- ▶▶ ECP パラレルポートを拡張機能ポートとして使用します。
- ▶▶ ECP+EPP パラレルポートを ECP および EPP モードで使用します。

🔑 Game Port Address

- ▶▶ 201 ゲームポートアドレスを 201 に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ 209 ゲームポートアドレスを 209 に設定します。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

🔑 Midi Port Address

- ▶▶ 300 MIDI ポートアドレスを 300 に設定します。
- ▶▶ 330 MIDI ポートアドレスを 330 に設定します。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)

🔑 Midi Port IRQ

- ▶▶ 5 MIDI ポートの IRQ を 5 に設定します。
- ▶▶ 10 MIDI ポートの IRQ を 10 に設定します。(デフォルト値)

Power Management Setup

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

Power Management Setup

ACPI Suspend Type	[S1(POS)]	Item Help
x USB Device Wake-Up From S3	Disabled	Menu Level ►
Soft-Off by PWRBTN	[Instant-Off]	[S1]
AC BACK Function	[Soft-Off]	Set suspend type to
Keyboard Power On	[Disabled]	Power On Suspend under
Mouse Power On	[Disabled]	ACPI OS
PME Event Wake Up	[Enabled]	[S3]
Modem Ring Resume	[Enabled]	PSet suspend type to
Resume by Alarm	[Disabled]	Suspend to RAM under
x Date (of Month) Alarm	Everyday	ACPI OS
x Time (hh:mm:ss)	0 0 0	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 5: Power Management Setup

🔓 ACPI Suspend Type

- ▶▶ S1 (POS) ACPI サスペンドタイプを S1 に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ S3 (STR) ACPI サスペンドタイプを S3 に設定します。

🔓 USB Device Wake-Up from S3

- ▶▶ Disabled S3 からの USB デバイスウェイクアップを無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Enabled S3 からの USB デバイスウェイクアップを有効にします。

🔓 Soft-Off by PWRBTN

- ▶▶ Instant-off 電源ボタンを押すと、すぐ電源をオフにします。(デフォルト値)
- ▶▶ Delay 4 Sec. 電源ボタンを 4 秒以上押し続けると、電源オフになります。ボタン押す時間が 4 秒間未満の場合、サスペンドモードに入ります。

🔗 AC BACK Function

- ▶▶ Memory 電源のオン/オフは AC 停電直前の状態に依存します。
- ▶▶ Soft-Off AC 復帰の時は常にオフにします。(デフォルト値)
- ▶▶ Full-On AC 復帰の時は常にオンにします。

🔗 Keyboard Power On

- ▶▶ Password キーボード電源オン機能のパスワードを 1-5 文字で入力してください。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Keyboard 98 “パワーキー”ボタンがキーボードにある場合は、そのキーを押すとシステム電源がオンになります。

🔗 Mouse Power On

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Enabled PS/2 マウスの左ボタンをダブルクリックするとシステム電源がオンになります。

🔗 PME Event Wake Up

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。
- ▶▶ Enabled PME イベントウェイクアップを有効にします。(デフォルト値)

🔗 Modem Ring Resume

- ▶▶ Disabled モデムリングオン機能を無効にします。
- ▶▶ Enabled モデムリングオン機能を有効にします。(デフォルト値)

🔗 Resume by Alarm

“Resume by Alarm”項目の設定で、入力した日付/時刻にシステム電源がオンになります。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Enabled アラーム機能を有効にすることで、電源オンにします。

RTC アラームによる電源オンが有効の場合。

アラーム日付(月): 毎日、1-31

アラーム時刻(hh: mm: ss): (0~23):(0~59):(0~59)

PnP/PCI Configurations

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

PnP/PCI Configurations

PCI 1/PCI 5 IRQ Assignment	[Auto]	Item Help
PCI 2 IRQ Assignment	[Auto]	Menu Level ►
PCI 3 IRQ Assignment	[Auto]	
PCI 4 IRQ Assignment	[Auto]	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 6: PnP/PCI Configurations

🔑 PCI 1/PCI 5 IRQ Assignment

- ▶▶ Auto PCI 1/PCI 5 へ IRQ を自動的に割当てます。(デフォルト値)
- ▶▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 PCI 1/PCI 5 に IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を割当てます。

🔑 PCI 2 IRQ Assignment

- ▶▶ Auto PCI 2 へ IRQ を自動的に割当てます。(デフォルト値)
- ▶▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 PCI 2 に IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を割当てます。

🔑 PCI 3 IRQ Assignment

- ▶▶ Auto PCI 3 へ IRQ を自動的に割当てます。(デフォルト値)
- ▶▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 PCI 3 に IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を割当てます。

🔑 PCI 4 IRQ Assignment

- ▶▶ Auto PCI 4 へ IRQ を自動的に割当てます。(デフォルト値)
- ▶▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 PCI 4 に IRQ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 を割当てます。

PC Health Status

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

PC Health Status

Vcore	OK	Item Help
DDR25V	OK	Menu Level ►
+3.3V	OK	
+12V	OK	
Current CPU Temperature	28°C	
Current CPU FAN Speed	4963 RPM	
Current SYSTEM FAN Speed	0 RPM	
CPU FAN Fail Warning	[Disabled]	
SYSTEM FAN Fail Warning	[Disabled]	
CPU Smart FAN Control◆	[Enabled]	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help		
F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 7: PC Health Status

🔑 Current Voltage (V) Vcore /DDR25V +3.3V / +12V

▶ システム電圧状態を自動検出します。

🔑 Current CPU Temperature

▶ CPU 温度を自動検出します。

🔑 Current CPU/SYSTEM FAN Speed (RPM)

▶ CPU/SYSTEM ファン速度状態を自動検出します。

◆ GA-8VT880 Ultra用 * GA-8VT880-L用

🔓 CPU FAN Fail Warning

- ▶▶ Disabled ファン警告機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Enabled ファン警告機能を有効にします。

🔓 SYSTEM FAN Fail Warning

- ▶▶ Disabled ファン警告機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Enabled ファン警告機能を有効にします。

🔓 CPU Smart FAN Control ◆

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。
- ▶▶ Enabled CPU スマートファン制御機能を有効にします。(デフォルト値)
 - a. CPU 温度が摂氏 40°Cを超えると、CPU ファンは高速回転します。
 - b. CPU 温度が摂氏 40°C未満の時は、CPU ファンは低速回転します。

Frequency/Voltage Control

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

Frequency/Voltage Control

CPU Clock Ratio	[15X]	Item Help
Auto Detect DIMM/PCI Clk	[Enabled]	Menu Level ►
Spread Spectrum	[Enabled]	
CPU Host Clock Control	[Disabled]	
xCPU Clock	[100MHz]	
xFixed PCI/AGP Frequency	[Disabled]	
PCI/AGP Frequency (MHz)	[Disabled]	
DRAM Clock	[By SPD]	
CPU Voltage Control	[Normal]	
Normal CPU Vcore	1.4750V	
AGP OverVoltage Control	[Auto]	
DIMM OverVoltage Control	[Auto]	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図 8 : Frequency/Voltage Control

※ これらの項目は“CPU Host Clock Control”が有効になっているときに使用可能です。

☞ CPU Clock Ratio

CPU レシオを固定で使用している場合は、この選択項目は表示されないか、使用不能となります。

▶▶ 15X~21X CPU クロックレシオに依存します。

この項目は CPU 検出により自動設定されます。

C-ステッピング P4 の場合 : 8X, 10X~24X デフォルト : 15X

Northwood CPU の場合 : 12X~24X デフォルト : 16X

CPU レシオが変更できない場合は“固定”と表示され、リードオンリーとなります。

☞ Auto Detect DIMM/PCI clk

▶▶ Enabled DIMM/PCI クロックを自動検出します。(デフォルト値)

▶▶ Disabled この機能を無効にします。

☞ Spread Spectrum

- ▶ Enabled クロックのスペルッドスペクトラムを有効にします。(デフォルト値)
- ▶ Disabled この機能を無効にします。

☞ CPU Host Clock Control

注: システムが CMOS セットアップユーティリティ起動前にハングアップした場合は、20 秒間の再起動タイムアウト時間を待ってください。タイムアウトが起これば、システムはリセットされ、CPU はデフォルトホストクロックに戻って再起動します。

- ▶ Disabled CPU ホストクロック制御を無効にします。(デフォルト値)
- ▶ Enabled CPU ホストクロック制御を有効にします。

☞ CPU Clock

- ▶ 200MHz ~ 255MHz CPU ホストクロックを 200MHz から 255MHz の間に設定します。
- 間違った設定はシステムの故障の原因となります。パワーユーザーのみ操作してください！

☞ Fixed PCI/AGP Frequency

- ▶ PCI/AGP クロックを CPU クロックとは非同期に設定します。

☞ PCI/AGP Frequency (MHz)

- ▶ 数値は CPU ホストクロック(MHz)に依存します。

☞ DRAM Clock (MHz)

- ▶ DRAM クロックを必要に応じて設定します。
- DDR266 DRAM モジュールをご使用の場合は、“DRAM クロック(MHz)”を“133-DDR266”に設定してください。DDR333 DRAM モジュールをご使用の場合は、“DRAM クロック(MHz)”を“166-DDR333”に設定してください。DDR400D RAM モジュールをご使用の場合は、“DRAM クロック(MHz)”を“200-DDR400”に設定してください。
- 間違った設定はシステムの故障の原因となります。パワーユーザーのみ操作してください！

- ▶ By SPD メモリクロックを DRAM SPD データによって設定します。(デフォルト値)

☞ CPU Voltage Control

- ▶ Normal CPU 電圧制御を通常設定にします。(デフォルト値)
 - ▶ CPU コア電圧を 0.8375V から 1.8500V の範囲で 0.025V ステップ調節できるようにサポートします。
- ⚠ 間違った設定はシステム起動不能になる可能性があります。パワーユーザーのみ操作してください！

🔗 Normal CPU Vcore

- ▶▶ CPU Vcore 電圧を表示します。

🔗 AGP OverVoltage Control

- ▶▶ Auto AGP カードに必要な電圧を供給します。(デフォルト値)
- ▶▶ +0.1V AGP 過電圧制御を+0.1V に設定します。
- ▶▶ +0.2V AGP 過電圧制御を+0.2V に設定します。
- ▶▶ +0.3V AGP 過電圧制御を+0.3V に設定します。
- ⚠ AGP 電圧を上昇させると、オーバークロックに安定する可能性があります。ただし、この機能を使用すると、AGP カードに損傷を与える可能性があります。

🔗 DIMM OverVoltage Control

- ▶▶ Auto DRAM モジュールに必要な電圧を供給します。(デフォルト値)
- ▶▶ +0.1V AGP 過電圧制御を+0.1V に設定します。
- ▶▶ +0.2V AGP 過電圧制御を+0.2V に設定します。
- ▶▶ +0.3V AGP 過電圧制御を+0.3V に設定します。
- ⚠ DRAM 電圧を上昇させると、オーバークロックに安定する可能性があります。ただし、この機能を使用すると DRAM モジュールに損傷を与える可能性があります。

Load Fail-Safe Defaults

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

▶Standard CMOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶Advanced BIOS Features	Load Optimized Defaults
▶Integrated Peripherals	Set Supervisor Password
▶Power Management Setup	Set User Password
▶PnP/PC	
▶PC Health Status	Load Fail-Safe Defaults? (Y/N)?Y
▶Frequency/Voltage Control	
ESC:Quit	↑↓→←:Select Item
F8: Q-Flash	F10:Save & Exit Setup
Load Fail-Safe Defaults	

図 9: Load Fail-Safe Defaults

Load Fail-Safe Defaults

Fail-Safe defaults はシステムパラメータの最適値で構成され、システムに最低限の性能で動作します。

Load Optimized Defaults

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

▶Standard CMOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶Advanced BIOS Features	Load Optimized Defaults
▶Integrated Peripherals	Set Supervisor Password
▶Power Management Setup	Set User Password
▶PnP/PCI Configurations	Save & Exit Setup
▶PC Health Status	
▶Frequency/Voltage Control	
Load Optimized Defaults? (Y/N)?Y	
ESC:Quit	↑↓→←:Select Item
F8: Q-Flash	F10:Save & Exit Setup
Load Optimized Defaults	

図 10: Load Optimized Defaults

Load Optimized Defaults

この設定を選択すると、BIOS の出荷時デフォルト値およびシステムが自動検知するチップセット機能がロードされます。

Set Supervisor/User Password

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

▶Standard CMOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶Advanced BIOS Features	Load Optimized Defaults
▶Integrated Peripherals	Set Supervisor Password
▶Power Management Setup	Set User Password
▶PnP/PCI	Enter Password:
▶PC Health Status	
▶Frequency/Voltage Control	
ESC:Quit	↑↓→←:Select Item
F8: Q-Flash	F10:Save & Exit Setup
Change/Set/Disable Password	

図 11 : Password Setting

この機能を選択すると、画面中央に以下のメッセージが表示され、パスワード作成のヒントを提供します。

最大8文字のパスワードをキー入力し、<Enter>を押します。パスワードの確認を求められます。パスワードを再度キー入力し、<Enter>を押します。<Esc>を押すと設定は中断され、パスワード入力を中止します。

パスワードを無効にするには、パスワード入力を求められた時点で<Enter>を押します。“パスワードが無効になりました”というメッセージが表示され、パスワード無効を確認します。パスワードが無効になると、システムが起動し、いつでもセットアップが可能となります。

BIOS セットアッププログラムには異なる 2 つのパスワードが使用できます。

SUPERVISOR PASSWORD および USER PASSWORD です。無効にすると、誰でも BIOS セットアッププログラム機能を使用できます。有効にすると、BIOS セットアッププログラムの設定欄全てを表示するには管理者パスワード、基本項目のみ表示するにはユーザーパスワードの入力が必要となります。

詳細 BIOS 機能メニュー内の“Password Check”で“System”を選ぶと、システム再起動のたびまたはセットアップに入るたびに、パスワード入力が必要されます。

詳細 BIOS 機能メニュー内の“Password Check”で“Setup”を選ぶと、セットアップに入るときのみパスワード入力が必要されます。

Save & Exit Setup

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

▶ Standard CMOS Features ▶ Advanced BIOS Features ▶ Integrated Peripherals ▶ Power Management Setup ▶ PnP/PS/2 ▶ PC Health Status ▶ Frequency/Voltage Control	- Load Fail-Safe Defaults - Load Optimized Defaults - Set Supervisor Password - Set User Password
Save to CMOS and EXIT (Y/N)? Y	
ESC:Quit	↑↓→←:Select Item
F8: Q-Flash	F10:Save & Exit Setup
Save Data to CMOS	

☒ 12: Save & Exit Setup

“Y”を入力すると、ユーザー設定値をRTC CMOSに保存し、セットアップユーティリティを終了します。

“N”を入力すると、セットアップユーティリティに戻ります。

Exit Without Saving

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2003 Award ソフトウェア

▶Standard CMOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶Advanced BIOS Features	Load Optimized Defaults
▶Integrated Peripherals	Set Supervisor Password
▶Power Management Setup	Set User Password
▶PnP/PCI	
▶PC Health	
▶Frequency/Voltage Control	
Quit Without Saving (Y/N)? N	
ESC:Quit	↑↓→←:Select Item
F8: Q-Flash	F10:Save & Exit Setup
Abandon all Data	

図 13: Exit Without Saving

“Y”を入力すると、ユーザー設定値をRTC CMOSに保存せずにセットアップユーティリティを終了します。

“N”を入力すると、セットアップユーティリティに戻ります。

日本語

[illegible]

日本語

[illegible]

第 4 章 技術情報

BIOS のフラッシュ方法の説明

方法 1: Q-Flash



BIOS のフラッシュ方法の説明

Q-Flash™はフラッシュ ROM に組み込まれた BIOS フラッシュユーティリティです。当ユーティリティにより、ユーザーが BIOS を更新する際は、ただ BIOS メニューから操作できます。Q-Flash™により BIOS のフラッシュ操作が DOS や Windows 上のユーティリティなしで行えます。Q-Flash™は BIOS メニュー内にありますから、オペレーティングシステムやその他複雑な操作手順などが不要になります。



注意

BIOS の更新はある程度リスクを伴うので注意深く行ってください！
ユーザー皆様の BIOS 更新の誤操作に伴うシステムの障害に関しては
Gigabyte Technology Co., Ltd は責任を負いかねますこと、ご容赦ください。

操作の準備:

Q-Flash™により BIOS 更新を始める前に、以下の手順に従ってください。

1. Gigabyte のウェブサイトから、ご使用のマザーボード用の最新の BIOS をダウンロードします。
2. ダウンロードされた BIOS を展開し、フロッピーディスクに BIOS ファイル(モデル名.Fxx という形式、例: 7VRXP.F12)を保存します。
3. ご使用の PC を再起動し、**Del** を押して BIOS メニューに入ります。

以下の BIOS 更新の手順は 2 つのパートに分かれています。

お持ちのマザーボードがデュアル BIOS 装備の場合は、パート I をご参照ください。

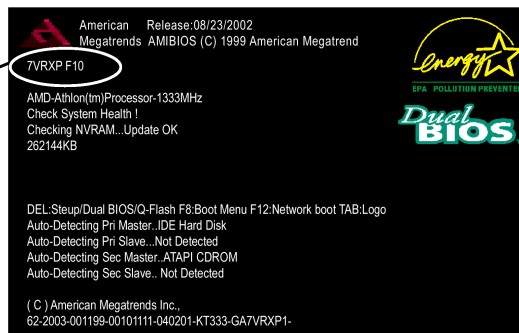
お持ちのマザーボードが単一の BIOS 装備の場合は、パート II をご参照ください。

パート I:

デュアル BIOS マザーボードでの Q-Flash™ を利用して、BIOS を更新。

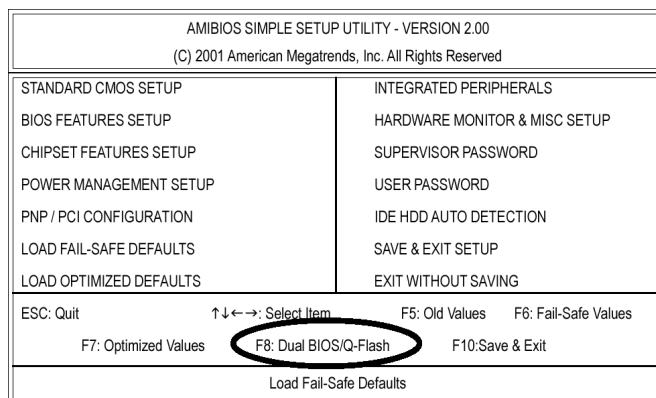
Gigabyte 製マザーボードにはデュアル BIOS を装備しているものがあります。Q-Flash™ およびデュアル BIOS をサポートするマザーボードでの BIOS の場合、Q-Flash™ ユーティリティおよびデュアル BIOS ユーティリティは同一画面に表示されます。当セクションでは Q-Flash™ ユーティリティの操作方法のみを説明します。以下のセクションでは GA-7VRXP を参考例として、BIOS フラッシュ動作で古いバージョンから新しいバージョンへの更新方法をご案内します。例えば F10 から F12 への更新というようにです。

更新前の BIOS
ファイルは F10

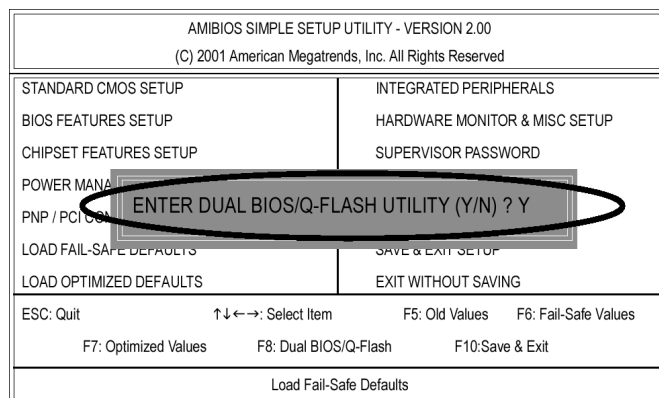


Q-Flash™ ユーティリティに入る:

ステップ 1 : Q-Flash™ ユーティリティの使用には、起動画面で **Del** を押し BIOS メニューに入ってください。

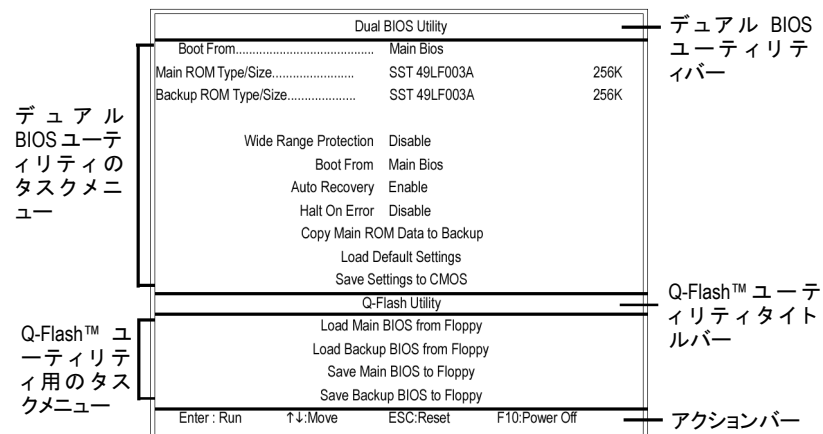


ステップ 2 : キーボード上の F8 ボタンを押し、次に Y キーを押し Q-Flash™ ユーティリティに入って下さい。



Q-Flash™/デュアル BIOS ユーティリティ画面の説明

Q-Flash™/デュアル BIOS ユーティリティ画面は以下の主要コンポーネントから構成されています。



デュアル BIOS ユーティリティのタスクメニュー:

ここには 8 種のタスクおよび 2 項目で、BIOS の ROM タイプの情報を表示します。タスクをポイントして Enter キーを押すと、そのタスクが実行されます。

Q-Flash™ ユーティリティ用のタスクメニュー:

4 種のタスクが含まれます。タスクをポイントして Enter キーを押すと、そのタスクが実行されます。

アクションバー:

Q-Flash™/デュアル BIOS ユーティリティの操作に必要な 4 種の操作名が含まれます。記述されているキーをキーボードから押すことで操作が実行されます。

Q-Flash™ ユーティリティの使用:

このセクションでは Q-Flash™ ユーティリティを利用して BIOS を更新する方法が説明されています。全述の“操作の準備”セクションで説明されているように、ご使用のマザーボード用の BIOS ファイルを保存したフロッピーを用意し、これをコンピュータに入れる必要があります。フロッピーディスクをコンピュータに入れ、Q-Flash™ ユーティリティに入ったなら、以下の手順で BIOS のフラッシュを実行します。

ステップ:

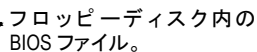
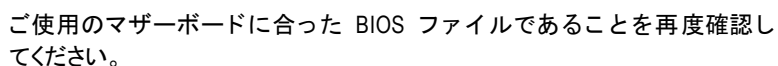
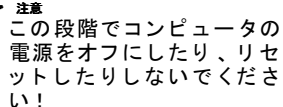
1. キーボードの矢印キーで、Q-Flash™ メニュー内の“Update BIOS from Floppy”をハイライト表示させ、そして Enter ボタンを押します。



現在の BIOS をバックアップ目的で保存するには、“Save Main BIOS to Floppy”の項目を選択して、ステップ 1 から始めます。

Dual BIOS Utility		
Boot From.....	Main Bios	
Main ROM Type/Size.....	SST 49LF003A	256K
Backup ROM Type/Size.....	SST 49LF003A	256K
Wide Range Protection Disable		
Boot From Main Bios		
Auto Recovery Enable		
Halt On Error Disable		
Copy Main ROM Data to Backup		
Load Default Settings		
Save Settings to CMOS		
Q-Flash Utility		
Load Main BIOS from Floppy		
Load Backup BIOS from Floppy		
Save Main BIOS to Floppy		
Save Backup BIOS to Floppy		
Enter : Run	↓:Move	ESC:Reset F10:Power Off

2. フラッシュ対象の BIOS ファイルを指定し Enter を押します。
この例では、フロッピーディスクにダウンロードしたファイルはただ1つなので、7VRXPF12 のみが表示されています。

[illegible]

The screenshot shows the 'Dual BIOS Utility' screen. At the top, it displays 'Boot From..... Main Bios'. Below this, it shows 'Main ROM Type/Size..... SST 49LF003A' with a size of '256K', and 'Backup ROM Type/Size..... SST 49LF003A' also with a size of '256K'. Further down, 'Wide Range Protection' is set to 'Disable'. The 'Boot From' is 'Main Bios', 'Auto Recovery' is 'Enable', and 'Update BIOS' is 'Disable'. A large grey box with a black border contains the text 'CHECKSUM = 96D2' and 'Are you sure to update BIOS?'. Below this box, a black oval highlights the prompt '[Enter] to continue or [Esc] to abort.....'. At the bottom of the screen, there are four options: 'Load Main BIOS from Floppy', 'Load Backup BIOS from Floppy', 'Save Main BIOS to Floppy', and 'Save Backup BIOS to Floppy'. The footer contains the navigation keys: 'Enter : Run', '↑↓:Move', 'ESC:Reset', and 'F10:Power Off'.

Dual BIOS Utility		
Boot From.....	Main Bios	
Main ROM Type/Size.....	SST 49LF003A	256K
Backup ROM Type/Size.....	SST 49LF003A	256K
Wide Range Protection	Disable	
Boot From	Main Bios	
Auto Recovery	Enable	
Update BIOS	Disable	
CHECKSUM = 96D2		
Are you sure to update BIOS?		
[Enter] to continue or [Esc] to abort.....		
Load Main BIOS from Floppy		
Load Backup BIOS from Floppy		
Save Main BIOS to Floppy		
Save Backup BIOS to Floppy		
Enter : Run	↑↓:Move	ESC:Reset
		F10:Power Off

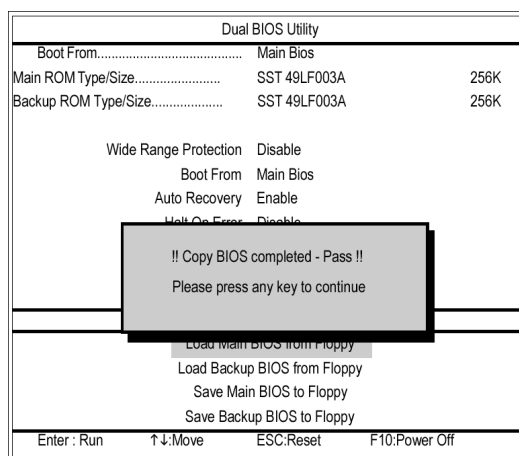
BIOS 更新を続行する場合は“Enter”、キャンセルする場合は“ESC”を押します。

-
- The screenshot shows the "Dual BIOS Utility" menu. At the top, it lists "Boot From..... Main Bios". Below that, it shows "Main ROM Type/Size..... SST 49LF003A 256K" and "Backup ROM Type/Size..... SST 49LF003A 256K". Further down are "Wide Range Protection Disable" and "Auto Recovery Enable". The central part of the screen displays "Programming Now....." followed by a series of ">>>>>>>" symbols, indicating a progress or status bar. Below this is a large warning message: "Don't Turn Off Power Or Reset System". At the bottom, there are four menu items: "Load Main BIOS from Floppy", "Load Backup BIOS from Floppy", "Save Main BIOS to Floppy", and "Save Backup BIOS to Floppy". The very bottom row contains navigation instructions: "Enter : Run", "↑↓: Move", "ESC:Reset", and "F10:Power Off".

BIOS ROM の損傷を防ぐため、この段階でのコンピュータの電源オフやリセットは行わないでください！

 BIOS フラッシュ中にフロッピーディスクを取り出さないでください。

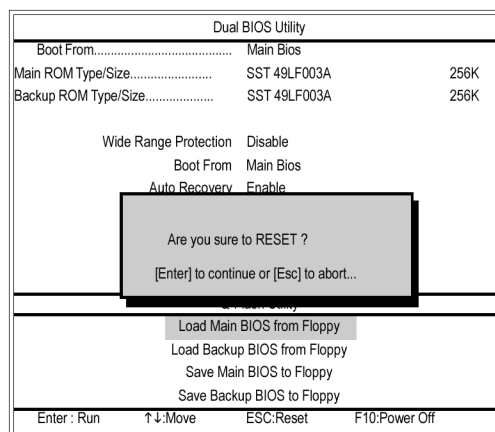
4. BIOS 更新操作が完了したら、キーボード上の任意のキーを押すと、Q-Flash™メニューに戻ります。



注

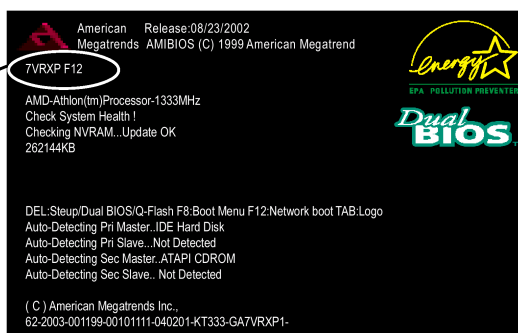
バックアップ BIOS のフラッシュにはステップ 1-4 を繰り返します。

5. Q-Flash™ユーティリティを終了するには“ESC”、次に Y キーを押します。
Q-Flash™終了後、コンピュータは自動的に再起動します。



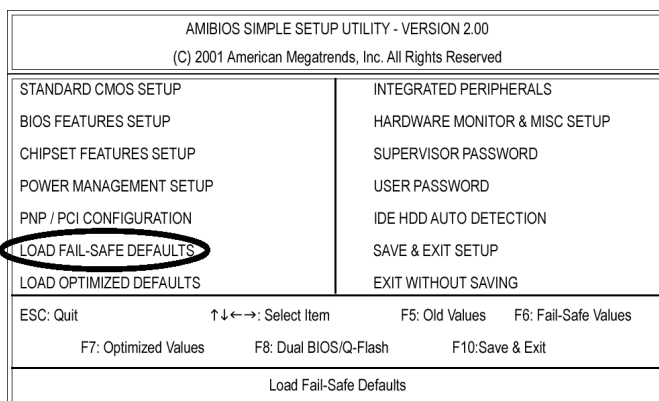
システム再起動後、起動画面上でフラッシュ後の BIOS バージョンが表示されます。

更新後 BIOS ファイルは F12 となっています



注 下図は AMI BIOS メニューの画面です。ただし、AWARD BIOS メニューでも同様の項目が表示されます。

- システム再起動後、**Del** を押して、BIOS メニューに入ります。BIOS メニューから **Load Fail-Safe Defaults** の項目を選び、**Enter** を押すと BIOS 安全デフォルト値がロードされます。通常、システムは BIOS 更新後に、既存のデバイスを皆再検出します。それで BIOS 更新後は、BIOS デフォルト値をロードしないよう強くお勧めします。



キーボードから Enter を押します。

キーボードから Y キーを押して、デフォルト値をロードします。

AMIBIOS SIMPLE SETUP UTILITY - VERSION 2.00 (C) 2001 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved	
STANDARD CMOS SETUP	INTEGRATED PERIPHERALS
BIOS FEATURES SETUP	HARDWARE MONITOR & MISC SETUP
CHIPSET FEATURES SETUP	SUPERVISOR PASSWORD
POWER MANAGEMENT	
PNP / PCI CONFIGURATION	
Load Fail-Safe Defaults (Y/N)? Y	
LOAD FAIL-SAFE DEFAULTS	SAVE & EXIT SETUP
LOAD OPTIMIZED DEFAULTS	EXIT WITHOUT SAVING
ESC: Quit ↑↓←→: Select Item F5: Old Values F6: Fail-Safe Values F7: Optimized Values F8: Dual BIOS/Q-Flash F10: Save & Exit	
Load Fail-Safe Defaults	

7. **Save & Exit Setup** の項目を選んで、設定を CMOS に保存し BIOS メニューを終了します。BIOS メニューを終了すると、システムは再起動します。これで全部の手順は完成です。

キーボードから Y キーを押して、保存して終了してください。

AMIBIOS SIMPLE SETUP UTILITY - VERSION 2.00 (C) 2001 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved	
STANDARD CMOS SETUP	INTEGRATED PERIPHERALS
BIOS FEATURES SETUP	HARDWARE MONITOR & MISC SETUP
CHIPSET FEATURES SETUP	SUPERVISOR PASSWORD
POWER MANAGEMENT	
PNP / PCI CONFIGURATION	
SAVE to CMOS and EXIT (Y/N) ? Y	
LOAD FAIL-SAFE DEFAULTS	SAVE & EXIT SETUP
LOAD OPTIMIZED DEFAULTS	EXIT WITHOUT SAVING
ESC: Quit ↑↓←→: Select Item F5: Old Values F6: Fail-Safe Values F7: Optimized Values F8: Dual BIOS/Q-Flash F10: Save & Exit	
Load Fail-Safe Defaults	

パート II:

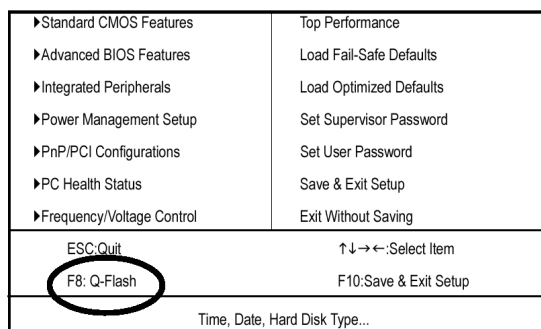
単一の BIOS のマザーボード上での Q-Flash™ユーティリティを利用して、BIOS を更新。

この部分では単一の BIOS のマザーボードで Q-Flash™ユーティリティを利用して BIOS を更新する方法が示されています。

Q-Flash™ユーティリティに入る:

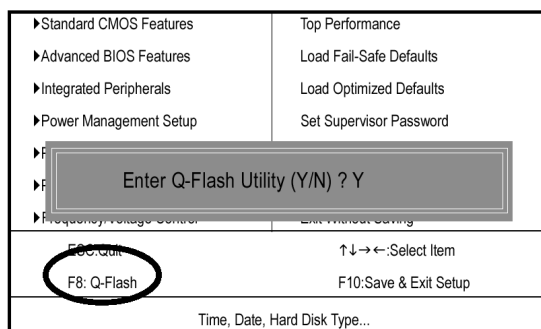
ステップ 1 : Q-Flash™ユーティリティの使用には、起動画面で **Del** を押して、BIOS メニューに入ってください。

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2002 Award ソフトウェア



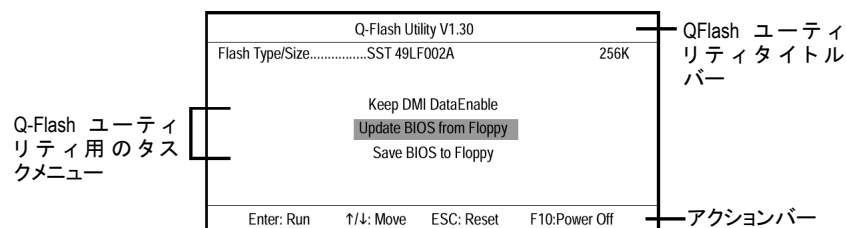
2. キーボード上の **F8** ボタンを押し、次に **Y** キーを押して Q-Flash™ユーティリティに入ります。

CMOS セットアップユーティリティ-Copyright (C) 1984-2002 Award ソフトウェア



Q-Flash™ユーティリティに入る

Q-Flash™ BIOS ユーティリティ画面は以下の主要コンポーネントから構成されています。



Q-Flash™ユーティリティ用のタスクメニュー: 3 種のタスクが含まれます。タスクをポイントして **Enter** キーを押すと、そのタスクが実行されます。

アクションバー: Q-Flash™ユーティリティの操作に必要な 4 種の操作名が含まれます。記述されているキーをキーボードから押すことで操作が実行されます。

Q-Flash™ユーティリティの使用:

このセクションでは Q-Flash™ユーティリティを利用して BIOS を更新する方法が説明されています。全述の“操作の準備”セクションで説明されているように、ご使用のマザーボード用の BIOS ファイルを保存したフロッピーを用意し、これをコンピュータに入れる必要があります。フロッピーディスクをコンピュータに入れ、Q-Flash™ユーティリティに入ったなら、以下の手順で BIOS のフラッシュを実行します。

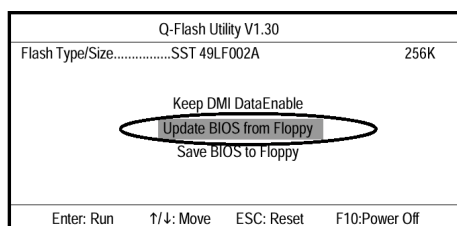
ステップ:

1. キーボードの矢印キーで、Q-Flash™メニュー内の“Update BIOS from Floppy”をハイライト表示させ、そして **Enter** ボタンを押します。



注

現在の BIOS をバックアップ目的で保存するには、**Save Main BIOS to Floppy** の項目を選択して、ステップ 1 から始めます。



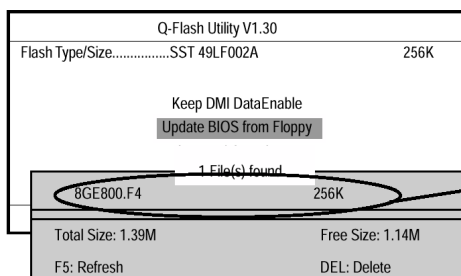
次に、フロッピーディスクにダウンロードされた BIOS ファイルがポップアップボックスに表示されます。

この例では、フロッピーディスクにダウンロードしたファイルはただ 1 つなので、8GE800.F4 のみが表示されています。

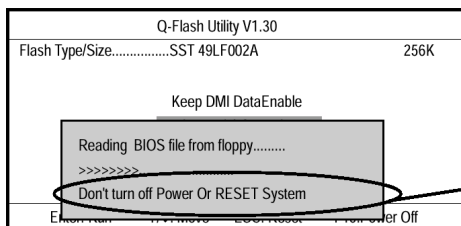
2. フラッシュ対象の BIOS ファイルをハイライト表示させ、キーボードの Enter キーを押すと、フロッピーから BIOS ファイルが読み込まれます。



ご使用のマザーボードに合った BIOS ファイルであることを再度確認してください。

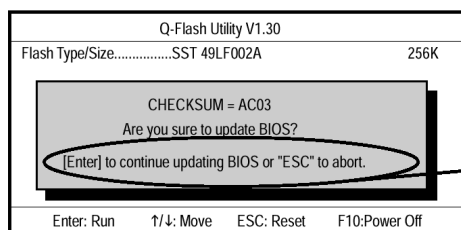


フロッピー内の BIOS ファイル



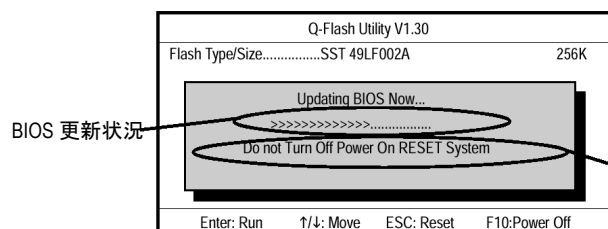
この段階でコンピュータの電源をオフにしたり、リセットしたりしないでください！

BIOS ファイル読み込みが完了すると、“Are you sure to update BIOS?”というダイアログボックスが確認を促します。



BIOS 更新を続行する場合は“Enter”、キャンセルする場合は“ESC”を押します。

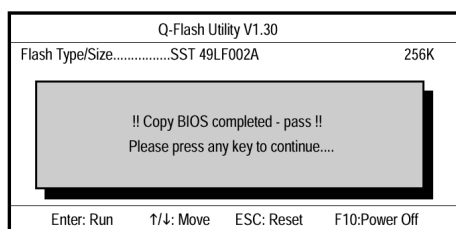
3. BIOS 更新を行うには Y キーを押します。
これで BIOS 更新が始まります。BIOS 更新状況が即時表示されます。



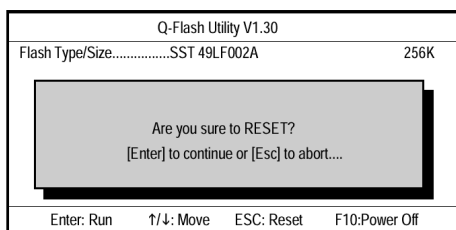
BIOS 更新状況

この段階でコンピュータの電源をオフにしたり、リセットしたりしないでください！

4. BIOS 更新操作が完了したら、キーボード上の任意のキーを押すと、Q-Flash™メニューに戻ります。



5. Q-Flash™ユーティリティを終了するには“ESC”、次に Enter キーを押します。システムが再起動します。



6. システム再起動後、Del を押して BIOS メニューに入り、BIOS Fail-Safe Defaults (BIOS 安全デフォルト値)をロードしてください。BIOS Fail-Safe Defaults のロード方法はパートIのステップ 6-7 をご参照ください。

これで完了です！これで BIOS 更新に成功しました！

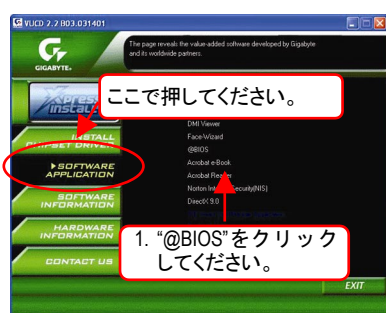


方法 2:

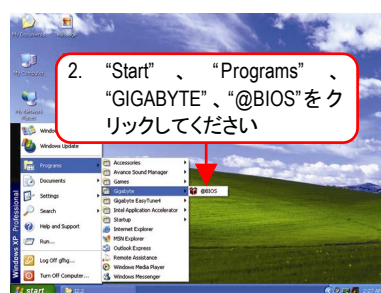
注

DOS 起動ディスクをお持ちでない場合は、Gigabyte @BIOS™プログラムを利用して BIOS フラッシュを行うようお勧めします。

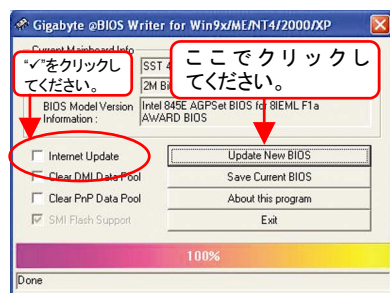
ユーティリティのインストールは画面上のセットアップ手順に従ってください。



(1)



(2)



(3)



(4)

方法と手順:

1. インターネット経由で BIOS を更新
 - a. “Internet Update”アイコンをクリックします
 - b. “Update New BIOS”アイコンをクリックします
 - c. @BIOS™ サーバを選びます
 - d. ご使用のマザーボードの正確なモデル名を選択します
 - e. システムは BIOS のダウンロードと更新を自動的に行います。

- II. インターネットを経由しないで BIOS を更新:
- a. “Internet Update”アイコンをクリックしないでください。
 - b. “Update New BIOS”アイコンをクリックします。
 - c. ファイルを開ける際には、ダイアログボックスから“All Files”を選びます。
 - d. インターネットやその他の方法からダウンロードした BIOS の非圧縮ファイル(例: 8VT880U.F1)を見出してください。
 - e. 続く指示に従って更新操作を完了させます。

III. BIOS の保存

最初の段階でダイアログボックスに“Save Current BIOS”アイコンが表示されます。これは現在使用中のバージョンの BIOS を保存することを意味します。

IV. サポートされているマザーボードおよびフラッシュ ROM の確認:

最初の段階でダイアログボックスに“About this program”アイコンが表示されます。これはサポートされるマザーボードとフラッシュ ROM メーカーの確認に役立ちます。

注:

- a. 方法 I で、選択すべきマザーボードのモデル名が 2 つ以上表示される場合には、ご使用のマザーボードのモデル名を再確認してください。間違ったモデル名を選択すると、システムが起動不能となります。
- b. 方法 II では、BIOS 非圧縮ファイルのマザーボードのモデル名が実際にご使用のマザーボードと一致していることをご確認ください。一致しないと、システムは起動しません。
- c. 方法 I で、必要な BIOS ファイルが@BIOS™サーバ内に見つからない場合は、Gigabyte ウェブサイトからダウンロードし、方法 II で更新してください。
- d. 更新途中で中断すると、システム起動が不能になる点にご注意ください。

@BIOS 紹介

Gigabyte が@BIOS を発表します

Windows BIOS ライブアップデートユーティリティ



BIOS 更新をご自分で行ったことがおありですか？または BIOS は何かは知っていても更新するのは躊躇する、大勢の一人かもしれません？理由としては、最新の BIOS への更新は不必要であると感じたり、実際の更新方法がわからない、などがあります。

または一般とは異なり、BIOS 更新の経験が豊富で、多くの時間を費やしておられるかもしれません。当然、これを頻繁に行うことはお望みではないでしょう。まず個々の BIOS をウェブサイトからダウンロードし、オペレーティングシステムを DOS モードにします。それから個々のフラッシュユーティリティを使って BIOS を更新します。これらのプロセスは面白い作業ではありません。さらに、BIOS の誤った更新では悪夢となりますから、BIOS ソースコードはディスクに注意して保存する必要があります。

確実に、皆さんはマザーボードベンダーがなぜ面倒な BIOS 更新操作の時間と労力を省く何かいい方法を考え出さないのか、いぶかしく思っておられるでしょう？ここでは実現したのです！ここで Gigabyte は初の Windows BIOS ライブアップデートユーティリティである@BIOS を発表いたします。これはスマートな BIOS 更新用のソフトウェアです。これで BIOS はインターネット経由でダウンロードおよび更新が行われます。他の BIOS 更新ソフトウェアとは異なり、これは Windows ユーティリティです。“@BIOS”のおかげで、BIOS 更新はクリックひとつで OK です。

さらに、ご使用のマザーボードがいずれの Gigabyte 製品であっても@BIOS が BIOS のメンテナンスを行います。当ユーティリティはご使用のマザーボードのモデルを正確に検知し、それに合った BIOS を選択します。それから BIOS が最寄の Gigabyte の ftp サイトから自動的にダウンロードされます。ここで幾つかの方法が選択可能です。“Internet Update”を利用して BIOS のダウンロードと更新を直接行うこともできます。または、現在の BIOS のバックアップを保存したい場合は“Save Current BIOS”を選んで先に保存することもできます。Gigabyte の@BIOS を利用してお持ちの BIOS 更新をスマートに行えます。これで誤った BIOS 更新の心配はなくなり、BIOS のメンテナンスと管理が容易になります。再度、Gigabyte の画期的製品はマザーボード業界で一つの里程碑を打ち立てました。

この素晴らしいソフトウェアの費用はどれほどでしょうか？信じられません！無料なのです！Gigabyte 製マザーボードをお買い求めになると、付属のドライバ CD 内にこの画期的ソフトウェアが収録されています。ただし、Gigabyte @BIOS からのインターネット BIOS 更新には、まずインターネット接続が必要であることをお忘れなく。

Easy Tune™ 紹介

Gigabyte は Windows ベースのオーバークロックユーティリティ EasyTune™ 4 W を発表します

EasyTune 4 は将来の世代へと引き継いでいくため、財産を伝えます。

“オーバークロック”はコンピュータ分野でもっとも人気のある話題の一つです。ですが、大勢のユーザーがトライしたことがあるのでしょうか？答はおそらく“ない”というものです。というのは、“オーバークロック”はとても困難で多くの技術的なノウハウが関係していると考えられ、時には“オーバークロック”は少数の熱狂的支持者が用いる特殊技術であるとまで考えられています。“オーバークロック”のエキスパートに
 関しての実情はどうでしょうか？その多くは“オーバークロック”に多くの時間とお金



をかけて勉強し、種々のハードウェアや BIOS ツールで行っています。これらの技術をもってしても、“オーバークロック”システムの安全度と安定性は未知なのでかなりのリスクがあると見られています。ここで Gigabyte から Windows ベースのオーバークロックユーティリティである“EasyTune 4”を発表することで、全ては変わります。この Windows ベースのユーティリティにより、“オーバークロック”の扱いは根本から変わります。これは通常およびパワーユーザーの両方にふさわしい、初の Windows ベースのユーティリティです。ユーザーは都合に応じてオーバークロックの“イージーモード”と“アドバンスドモード”が選択できます。“イージーモード”を選んだ場合、“自動最適化”をクリックするだけで自動的に CPU のオーバークロックが行われます。次に当ソフトウェアにより、上昇させた CPU クロックは自動的にコントロールパネル上にその結果が表示されます。ユーザー手動で“オーバークロック”を行うのを希望するのであれば、他の選択肢もあります。“アドバンスドモード”をクリックすると、“スポーツドライブ”タイプのオーバークロックユーザーインターフェースが楽しめます。“アドバンスドモード”により、ユーザーはシステムバス/ AGP / メモリ動作クロックを小刻みに調節して、最高のシステムパフォーマンスを得ることができます。これは Gigabyte 製マザーボードと協調します。さらに、通常のオーバークロック方法とは異なり、EasyTune 4 ではユーザーによる BIOS およびハードウェア切替またはジャンパー設定は不要です。即ち、“オーバークロック”が簡単なステップで行えます。ソフトウェアやハードウェアの変更がありませんから、これがより安全な“オーバークロック”の方法といえます。ユーザーが EasyTune 4 を実行して、システムの限界を超えた場合でも、最大の損失はコンピュータの再起動のみで、その他副作用は良く抑制されます。さらに EasyTune 4 により最適化されたシステムクロックに成功した場合、ユーザーはこの設定を“保存”し、次回“ロード”することが可能です。確かに Gigabyte EasyTune 4 は“オーバークロック”技術を次世代のものに変化させました。この素晴らしいソフトウェアは Gigabyte 製マザーボードをお買い求めになると、付属のドライバ CD 内にこの画期的ソフトウェアが無料で収録されています。ユーザーは“EasyTune 4”を実行してみて、さらに驚くべき機能をご自分で確かめられます。

Gigabyte 製品のあるものは“EasyTune 4”でサポートされていません。ウェブサイトのサポート対象製品リストをご参照ください。

“オーバークロック動作”はユーザー側のリスク責任で行われるもので、Gigabyte Technology はプロセッサ、マザーボード、その他コンポーネントの損傷や不安定な動作に関する責任は負いかねます。

2-/4-/6-チャンネルオーディオ機能紹介

windows 98SE/2K/ME/XP 上でのインストールはとても簡単です。以下のステップに従って機能をインストールしてください！

ステレオスピーカー接続および設定:

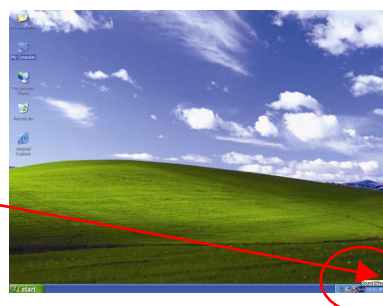
ステレオ出力を利用する場合、最良のサウンド効果を得るにはアンプ付きスピーカーの使用をお勧めします。

ステップ 1:
ステレオスピーカーまたはヘッドホンを“ライン出力”に接続します。

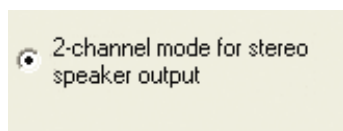


ライン出力

ステップ 2:
オーディオドライバをインストールすると、タスクバーのステータスエリアに  アイコンが表示されます。画面下部の Windows トレイ中の“Sound Effect”のオーディオアイコンをクリックします。



ステップ 3:
“Speaker Configuration”を選択し、“2 channel for stereo speakers out put”を選びます。



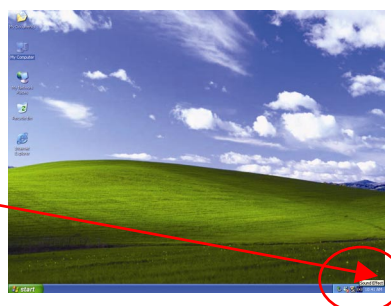
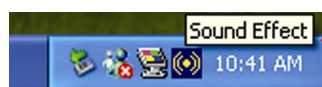
4 チャンネルアナログオーディオ出力モード

ステップ 1:
フロントチャンネルは“ライン出力”に、リアチャンネルは“ライン入力”に接続します。

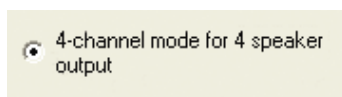


ライン出力 ライン入力

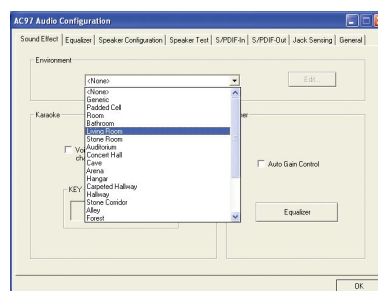
ステップ 2:
オーディオドライバをインストールすると、タスクバーのステータスエリアにスピーカーアイコンが表示されます。画面下部の Windows トレイ中の“Sound Effect”のオーディオアイコンをクリックします。



ステップ 3:
“Speaker Configuration”を選択し、“4 channel for 4 speakers out put”を選びます。
“Only SURROUND-KIT”を無効にして“OK”をクリックします。



“Environment settings”が“None”の場合、サウンドはステレオモード(2 チャンネル出力)となります。4 チャンネル出力には別の設定を選んでください。



基本的な 6 チャンネルアナログオーディオ出力モード

オーディオ出力の接続には、他のモジュールを追加せず後部オーディオパネルのみを使用します。

ステップ 1:

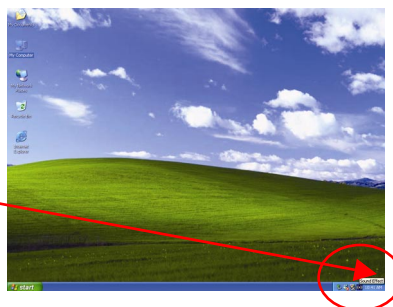
フロントチャンネルは"ライン出力"に、リアチャンネルは"ライン入力"に、センター/サブウーファーチャンネルは"マイク入力"に接続します。



マイク入力 ライン出力

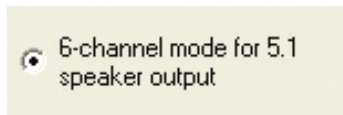
ステップ 2:

オーディオドライバをインストールすると、タスクバーのステータスエリアにスピーカーアイコンが表示されます。画面下部の Windows トレイ中の "Sound Effect" のオーディオアイコンをクリックします。



ステップ 3:

"Speaker Configuration" を選択し、"6 channel for 5.1 speakers out put" を選びます。
"Only SURROUND-KIT" を無効にして "OK" をクリックします。



アドバンス 6 チャンネルアナログオーディオ出力モード(オーディオコンボキット、オプション装備):

(オーディオコンボキットには、SPDIF 出力：光信号&同軸およびサラウンド-キット：、リア R/L & センター/サブウーファーが装備されています)

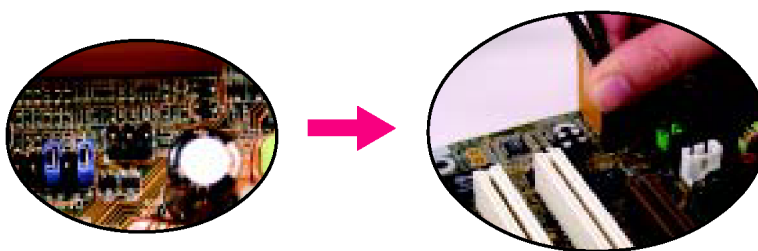
サラウンド-キットはリアチャンネルおよびセンター/サブウーファーチャンネルのアナログ出力にアクセスします。6 チャンネル出力とライン入力およびマイクを同時使用する場合は、この装備が最適なソリューションです。“サラウンド-キット”は、図の様に GIGABYTE 特製の“オーディオコンボキット”中に含まれています。



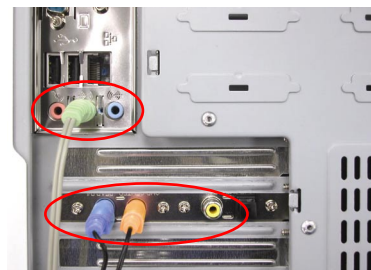
ステップ 1:
ケース後部に“サラウンド-キット”を装着し、ネジ止めします。



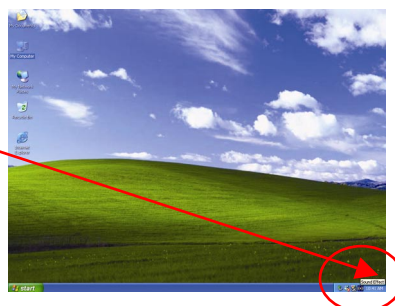
ステップ 2:
“サラウンド-キット”をマザーボード上の SUR_CEN コネクタに接続します。



ステップ 3:
フロントチャンネルを後部オーディオパネルの“ライン出力”に、リアチャンネルをサラウンドキットの REAR R/L に、センター/サブウーファーチャンネルをサラウンドキットの SUB CENTER に接続します。



ステップ 4:
画面下部の Windows トレイ中の“Sound Effect”のオーディオアイコンをクリックします。

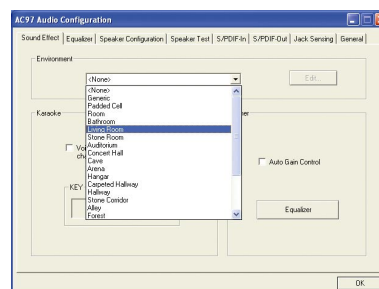


ステップ 5:
“Speaker Configuration”を選択し、“6 channel for 5.1 speakers out put”を選びます。
“Only SURROUND-KIT”を有効にして、“OK”をクリックします。



基本的小よびアドバンス 6 チャンネルアナログオーディオ出力モードに関するご注意:

“Environment settings”が“None”の場合、サウンドはステレオモード(2 チャンネル出力)となります。6 チャンネル出力には別の設定を選んでください。



SPDIF 出力デバイス(オプションデバイス)

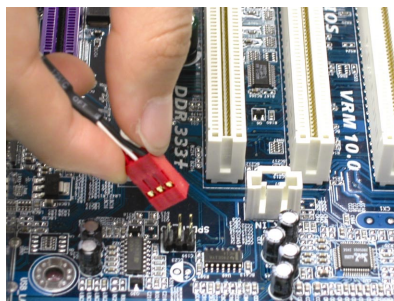
“SPDIF 出力”デバイスがマザーボード上で使用可能です。リアブラケット付きケーブルが装備され、“SPDIF 出力”コネクタに接続できます(図参照)。デコーダーへの接続用に、リアブラケットには同軸ケーブルおよび光ファイバーコネクタポートが装備されています。



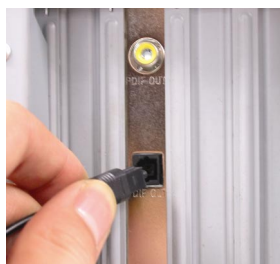
1. SPDIF 出力デバイスを PC のリアブラケットに装着し、ネジ止めします。



2. SPDIF デバイスをマザーボードに接続します。



3. SPDIF から SPDIF デコーダーに接続します。



Jack-Sensing 紹介



Jack-Sensingはオーディオコネクタにエラー検知機能を付与しています。



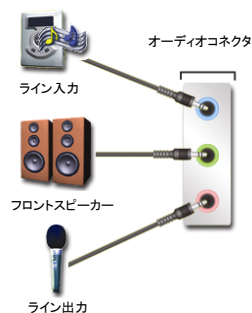
注意

Windows 98/98SE/2000/ME 環境で Jack-Sensing を有効にするには、まず Microsoft DirectX8.1 をインストールしてください。

Jack-Sensing は2部分から構成されています：自動とマニュアルです。以下は2チャンネルを例としています(Windows XP)：

オーディオコネクタの紹介

CDROM, ウォークマンやその他オーディオ入力デバイスをライン入力ジャックに、スピーカー、ヘッドホンその他オーディオ出力デバイスをライン出力ジャックに、マイクはマイク入力ジャックに接続します。



自動検知：

デバイスを上記の正しい組合せで接続します。デバイスを正しく接続した場合、ウィンドウにも正しく図示されます。3D オーディオ入力が存在する時のみ 3D オーディオ機能が表示される点にご注意ください。

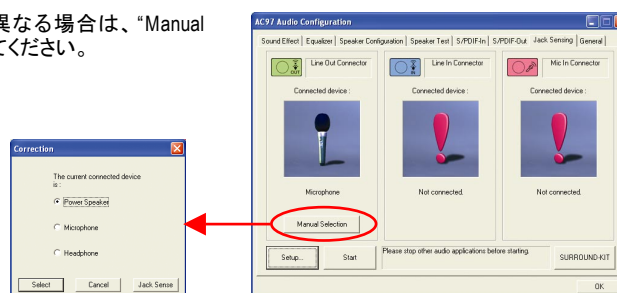


コネクタへの接続に誤りがある場合、右図の様に警告メッセージが表示されます。



マニュアル設定:

デバイスの図が設定と異なる場合は、“Manual Selection”を押して設定してください。



UAJ 紹介

UAJ (Universal Audio Jack)はとてもスマートな機能です：ユーザーがオーディオデバイスを間違ったジャックに差しても、信号は自動的に切替えます(ライン入力/ライン出力)。

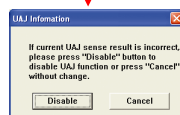
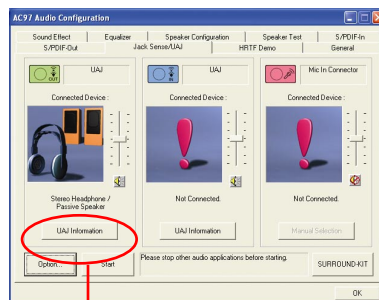
これはオーディオデバイスをライン入力のライン出力のどちらに差すか、ユーザーは心配せずに済むことを意味しています。UAJ が有効の場合はデバイスは問題なく動作します。



注意

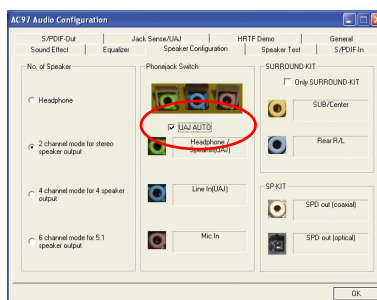
Windows 98/98SE/2000/ME 環境で UAJ 機能を有効にするには、まず Microsoft DirectX8.1 またはそれ以降のバージョンをインストールしてください。

PS.UAJがうまく作動しない場合は、“UAJ information”ボタンをクリックしてこの機能をオフにしてください。これで Jack-Sensing がオンになり、オーディオデバイスが正しいジャック(ライン入力またはライン出力)に差されると、自動検知されます。



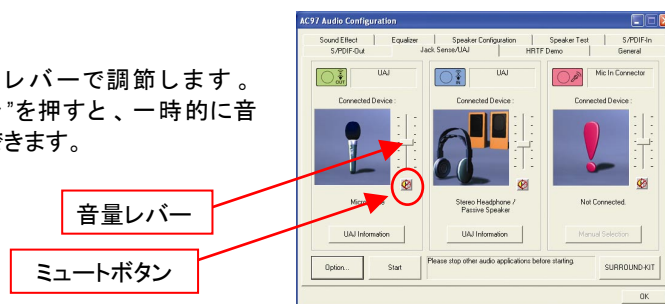
UAJ の再有効化:

“UAJ AUTO”をクリックすると、UAJ を再び有効にできます。

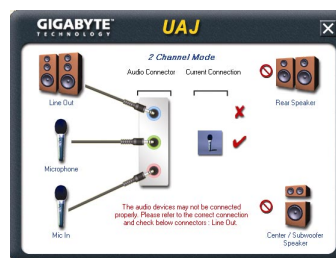


音量の調節:

音量はスライドレバーで調節します。
“ミュートボタン”を押すと、一時的に音が出ないようにできます。



ライン入力デバイスしか接続されていない場合は、UAI はライン出力デバイスが接続されていないことを表示されます。



注:

AUX 入力機能を使用する場合は、AC97 オーディオ設定メニューのスピーカー設定から UAJ 機能を無効にする必要があります。それから“音量コントロール”メニューのライン入力音量レバーで音量を調節することが必要です。これは AUX 入力とライン入力機能が同一のオーディオ信号で制御されていることによります。

Xpress Recovery 紹介

Xpress Recovery とは？

Xpress Recovery ユーティリティは OS パーティションのバックアップおよび復旧用のユーティリティです。ハードディスクドライブが正しく動作しない場合、これをもとの状態に戻せることができます。



注意

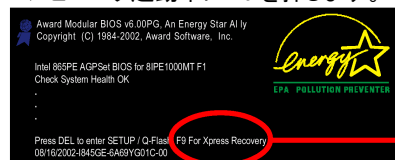
1. サポートされている形式は FAT16、FAT32、NTFS です。
 2. ハードディスクは IDE1 マスタに接続されている必要があります。
 3. インストール可能な OS は一つのみです。
 4. HPA 対応の IDE ハードディスクを使用する必要があります。
 5. 第 1 パーティションが起動パーティションとして設定されている必要があります。起動パーティションをバックアップする際には、そのサイズを変更しないでください。
 6. Ghost を利用して起動マネージャを NTFS 形式に復旧させたことがある場合は、Xpress Recovery の使用はお勧めしません。
-
1. システムデータおよびハードディスクの読み書き速度はバックアップ速度に影響します。
 2. OS、ドライバ、およびアプリケーションのインストール後すぐに Xpress Recovery をインストールするようお勧めします。

Xpress Recovery の使用方法

Xpress Recovery ユーティリティ起動方法は 2 通りあります。(下図参照)

1. テキストモード: コンピュータ起動中に F9 を押します。

コンピュータ起動中に F9 を押します。



F9 で Xpress Recovery 起動

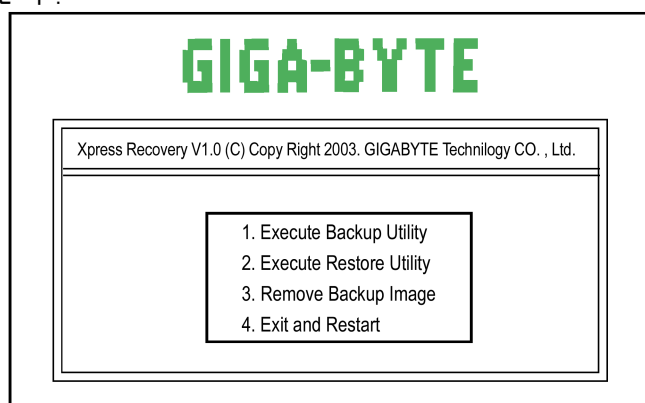
2. BMP モード: CD-ROM からの起動

“Advanced BIOS”設定メニューを表示させ、CD-ROM からの起動を設定し、保存後 BIOS メニューを終了します。画面下部に“Boot from CD:”が表示されたなら、マザーボードドライバ CD をコンピュータのドライブに入れ、何かキーを押すと Xpress Recovery が起動します。

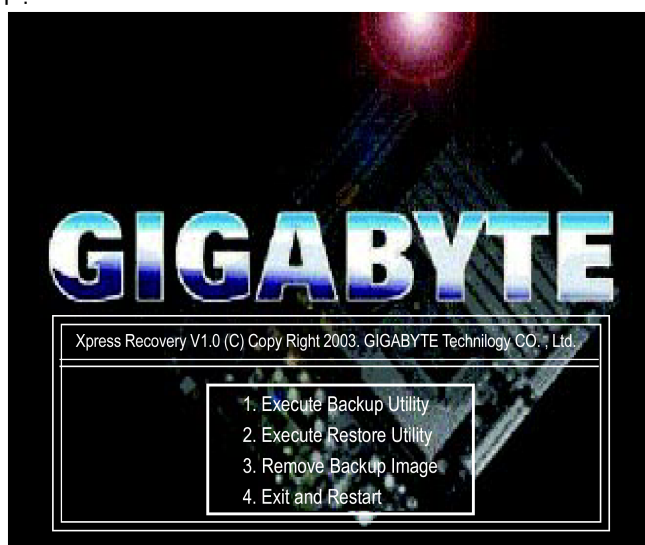


CD から起動:

キーボード上の矢印キーで項目をハイライト表示させ、Enter キーでメニューに入ることができます。
テキストモード:



BMP モード:



注意

CD-ROMからの起動でXpress Recoveryを起動したことがある場合は、起動画面でF9を押してもBMPモードが表示されます。

1. Execute Backup Utility:

✎ **B を押すとシステムをバックアップ、Esc で終了します。**

バックアップユーティリティはシステムを自動的に検出、バックアップします。

バックアップデータは非表示イメージとして保存されます。

2. Execute Restore Utility:

✎ **このプログラムはご使用のシステムを工場デフォルト設定に戻します。**

R を押してシステムを復帰します。

Esc で終了します

バックアップイメージを復帰して元の状態に戻します。

3. Remove Backup Image:

✎ **バックアップイメージを削除しますか？ (Y/N)**

バックアップイメージを削除します。

4. Exit and Restart:

終了してコンピュータを再起動します。

シリアル ATA BIOS 設定ユーティリティ紹介

RAID レベル

RAID (Redundant Array of Independent Disks)は2台のハードディスクを1つの論理ユニットとして結合する方法です。このアレイの利点はよりよいパフォーマンスまたはデータエラー耐性です。エラー耐性はデータの冗長的操作、つまりドライブの1台が故障してもミラーコピーされたデータが別のドライブに確保されているという形で実現されます。これでオペレーティングシステムの起動不能やハングアップなどでのデータ損失を防げます。アレイの個々のディスクはメンバーと呼ばれます。各メンバーの設定情報は予備セクターに記録され、各メンバーを認識します。ディスクアレイを構成するメンバー全体が、オペレーティングシステムからは1つの論理ドライブとして認識されます。

ハードディスクドライブは数種の異なる方法で組み合わせられます。これら異なる方法は異なる RAID レベルとして言及されます。個々の RAID レベルにより、パフォーマンスレベル、導入コストが異なります。VIA VT8237 サウスブリッジチップセットのサポートする RAID レベルは RAID 0, 1, および JBOD です。

RAID 0 (ストライピング)

RAID 0 では複数のドライブの間にインタリーブされたデータのセクタを読み書きします。ディスクメンバーのいずれかが故障すると、アレイ全体に影響します。ディスクアレイ容量は最小メンバー容量をドライブ数と掛けた量となります。ストライピングのブロックサイズは4KBから64KBまで設定できます。RAID 0 ではエラー耐性はサポートされません。

RAID1 (ミラーリング)

RAID 1 では複製されたデータが並列して2台のドライブに同時に読み書きされます。ミラー側のドライブが機械的に故障または応答しない場合でも、残りのドライブが機能しつづけます。アレイ容量は冗長性により、最小のドライブ容量となります。RAID 1 の設定ではスペアドライブと呼ばれる予備のドライブが接続されます。このドライブがミラー対象アレイの部分として、故障ドライブの代わりに動作します。いずれの RAID 1 ドライブが故障しても、データ耐性があるので、アレイの他方のドライブがある限りデータアクセスには支障がありません。

JBOD (スパンニング)

スパンニングディスクアレイは異なる容量のドライブが使用されている際、その容量は総和となります。スパンニングではデータは1台のドライブが一杯になるまで記録され、それからアレイ内の次のドライブへと記録されます。ディスクメンバーが故障した場合は、アレイ全体に影響します。JBOD は本当の意味での RAID ではなく、データ耐性もサポートされません。

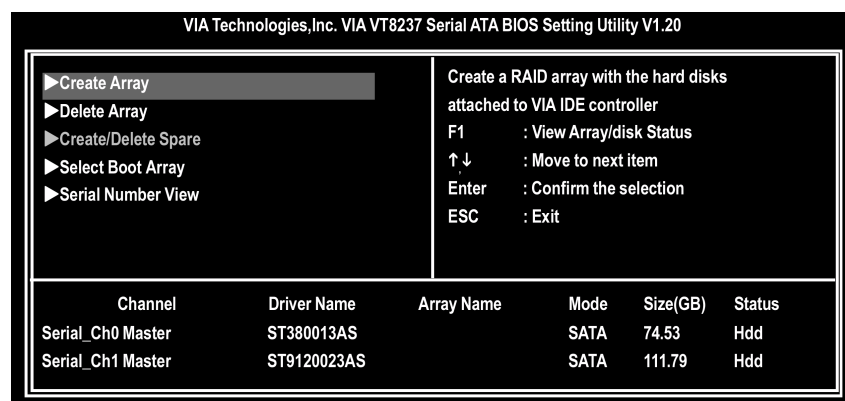
B. BIOS 設定ユーティリティに入り

システム電源をオンにすると、以下の情報が画面に表示されます。Tab キーを押して、BIOS 設定ユーティリティに入ってください。

```
VIA Technologies, Inc. VIA VT8237 Serial ATA BIOS Setting Utility V1.20
Copyright (C) VIA Technologies, Inc. All Right reserved.
```

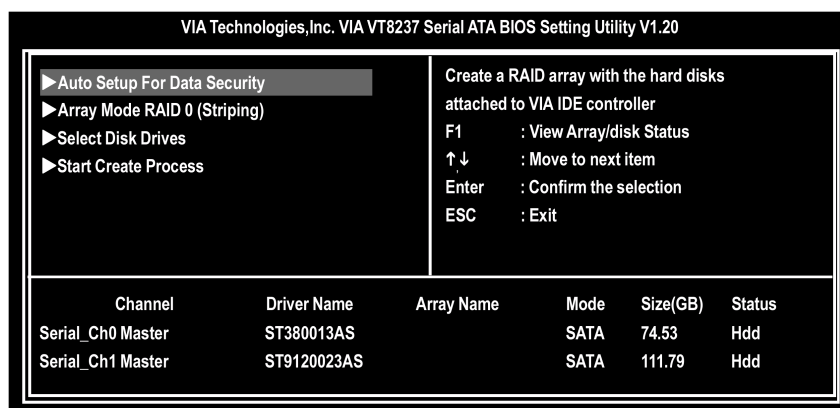
```
Scan Devices, Please wait...
Press <Tab> key into User Windows
Serial_Ch0 Master: ST380013AS
Serial_Ch1 Master: ST3120023AS
```

BIOS 設定ユーティリティのメインインタフェースは下図のとおりです。

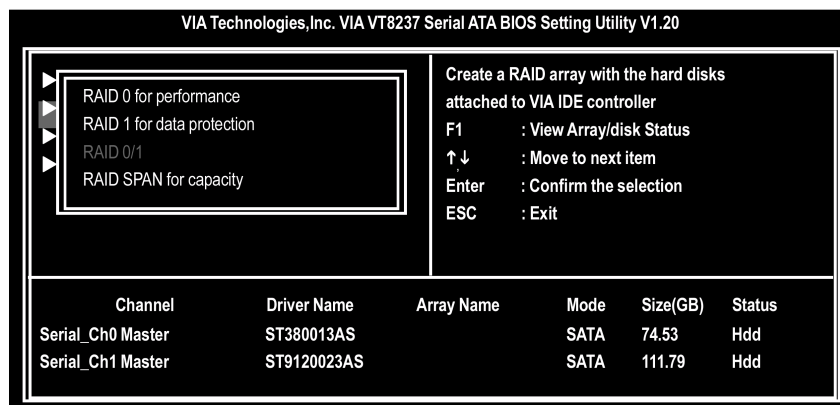


B-1 ディスクアレイの作成

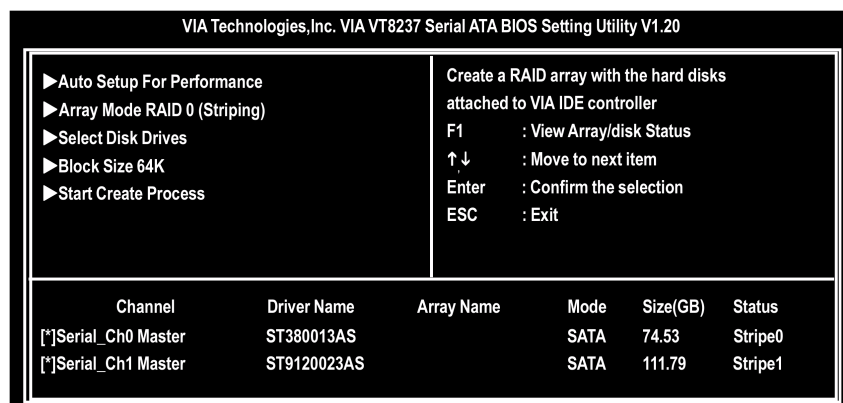
1. メインメニュー内の移動には矢印キーを使用します。上下の矢印キーで **Create Array** コマンドを選び、<Enter>を押して作成手順の一覧を表示させます。



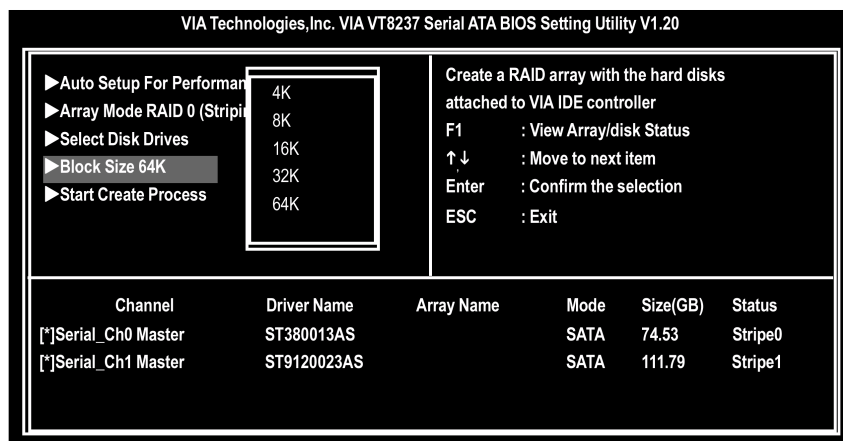
2. **Array Mode** を選び<Enter>を押すと、アレイモード一覧が表示されます。作成するアレイモードをハイライト表示させ、<Enter>を押して選択を確定します。RAID 1 を選んだ場合、オプションリストが表示され、ユーザーが **Create only** または **Create and duplicate** のいずれかを選ぶよう促されます。**Create only** では、BIOS はアレイを作成するだけです。ミラーリングドライブ上のデータはソースドライブとは異なる可能性があります。**Create and duplicate** により、BIOS はデータをソースドライブからミラーリングドライブにコピーします。



3. アレイモード選択後、ディスクアレイ作成には2つの方法があります。1つの方法は **Auto Setup** で、他には **Select Disk Drives** です。**Auto Setup** では、BIOS がディスクドライブを選択しアレイを自動作成しますが、RAID 1 の場合は **Create and duplicate** を選択してもミラーリングドライブへのコピーは行われません。アレイ作成の際には、ディスクドライブは全部新しい物を使用するようお勧めします。**Select Disk Drives** では、ユーザーがその必要に応じてアレイ用ドライブを選択できます。**Select Disk Drives** を使用すると、チャンネル欄が入力可能となります。使用する対象のドライブをハイライト表示させ、<Enter>を押して確定します。全てのドライブが選択し終わったら、<Esc>を押して作成手順メニューに戻ります。



4. ステップ2でRAID 0を選んだ場合は、アレイのブロックサイズも選択できます。矢印キーで **Block Size** をハイライト表示させ、<Enter>を押してから、ポップアップメニュー内からブロックサイズを指定します。ブロックサイズは4KBから64KBの範囲で指定します。

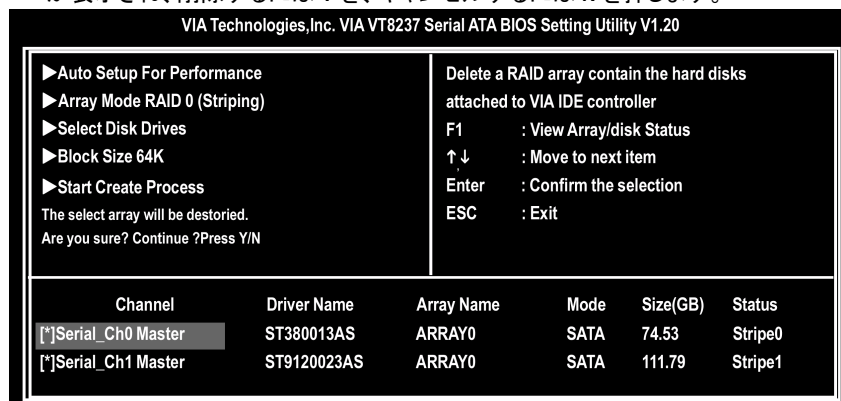


5. 矢印キーで **Start Create Process** をハイライト表示させ、<Enter>を押します。警告メッセージが表示され、作成を完了させるには **Y** を、キャンセルするには **N** を押します。
6. 重要な注意：アレイ作成後、ハードディスクドライブ内の既存のデータは皆失われます。

B-2 ディスクアレイの削除

RAID は作成後、削除も可能です。RAID の削除は、以下の方法で行います：

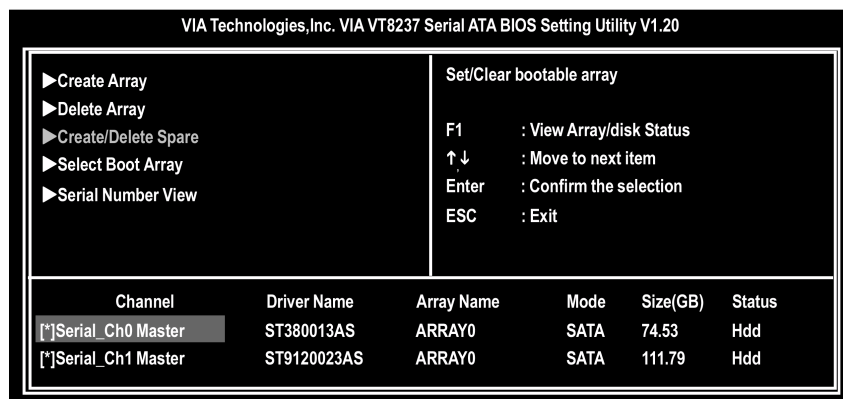
1. メインメニュー内の **Delete Array** を選び、<Enter>を押します。チャンネル欄が入力可能となります。
2. 削除対象のアレイメンバーを選択し、<Enter>を押します。警告メッセージが表示され、削除するには **Y** を、キャンセルするには **N** を押します。



アレイ削除後、RAID 1 以外ではディスクアレイ内の既存のデータは皆失われます。RAID 削除後、2 台のハードディスク上のデータが保存され、通常の 2 台のディスクドライブとなります。

B-3 起動アレイの選択

ユーザーがアレイからのオペレーティングシステムの起動を望まれる場合は、1 つのアレイを起動デバイスとして設定できます。オペレーティングシステムがディスクアレイから起動していない場合は起動ディスクアレイの選択はできません。**Select Boot Array** 項目をハイライト表示させます；<Enter>を押すと、チャンネル欄が入力可能となります。次に対象となるディスクアレイをハイライト表示させ、<Enter>を押します。起動マークのあるディスクアレイが選択され、<Enter>を押すと、その起動設定はキャンセルされます。

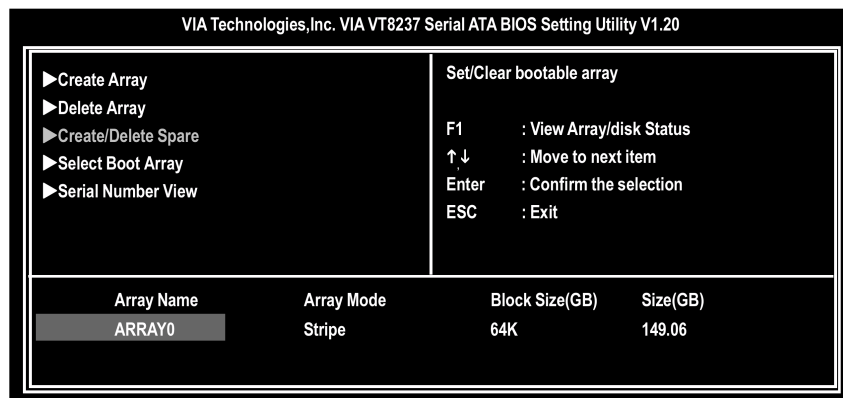


B-4 ハードディスクドライブのシリアルナンバー表示

Serial Number View をハイライト表示させ、<Enter>を押します。矢印キーでドライブを選択すると、選択されたドライブのシリアルナンバーが最後の欄に表示されます。シリアルナンバーはディスクドライブメーカーによって設定されています。

B-5 アレイ状況の表示

F1 キーを押すと、画面下方にアレイの状況が表示されます。ディスクアレイが存在しない場合は、画面には何も表示されません。



[illegible]

[illegible]

第 5 章 付録

ドライバのインストール

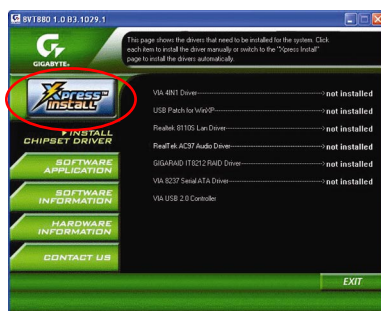


下図は、Windows XP に示されています

お買い上げのマザーボードに付属のドライバ CD-タイトルを CD-ROM ドライブに入れると、ドライバ CD-タイトルはオートスタートし、インストールガイドが表示されます。表示されない場合は、“マイ コンピュータ”中の CD-ROM ドライブのアイコンをダブルクリックし、setup.exe を実行してください。

チップセットドライバのインストール

このページにはシステムにインストールが必要なドライバが表示されています。各アイテムをクリックしてドライバを手動インストールするか、 に切り替えてドライバを自動インストールします。

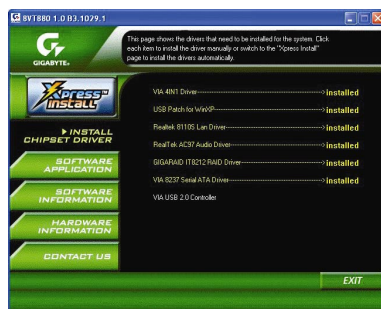


“Xpress Install”は“Click and Forget”テクノロジーにより、ドライバを自動インストールします。必要なドライバを選んで“GO”ボタンをクリックしてください。 はインストールを自動的に実行します。



メモ：ドライバによってはシステムを自動的に再起動するものがあります。システム再起動後、“Xpress Install”は他のドライバのインストールを続行します。

一覧にあるコンポーネントは全てインストールするようお勧めします。



注 ドライバのインストールは完了です！
システムを再起動する必要があります！

項目の説明

- VIA 4IN1 ドライバ
INF, AGP, IDE および DMA 用ドライバ
- WinXP 用 USB パス
このパッチドライバで、XP 上で S3 から USB デバイスウェイクアップを実行するとハングアップする問題を解決できます
- Realtek 8110S Lan ドライバ(◆) / RealTek LAN ドライバ(*)
Realtek Giga Lan ドライバ(◆)
81xx シリーズチップ(*)用 RealTek 10/100 LAN ドライバ
- RealTek AC97 Codec ドライバ
Realtek オーディオドライバ
- GIGARAID IT8212 RAID ドライバ(◆)
GigaRAID IT8212 RAID IDE コントローラ用
- VIA 8237 シリアル ATA ドライバ
VIA 8237 SATA 用ドライバ
- VIA USB 2.0 コントローラ
XP 用の USB 2.0 ドライバ情報



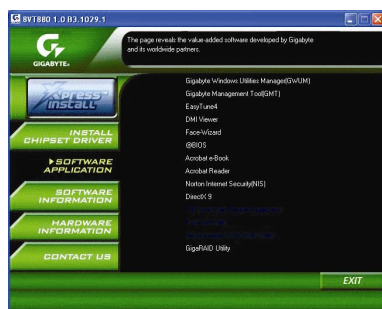
注意

Windows XP オペレーティングシステム環境での USB2.0 ドライバサポートについては、Windows Service Pack をご使用ください。Windows Service Pack インストール後、“デバイス マネージャ”内の“ユニバーサルシリアルバスコントローラ”の欄には疑問符“?”が表示されます。疑問符を取り除きシステムを再起動してください(システムは正しい USB2.0 ドライバを自動検出します)。

◆ GA-8VT880 Ultra 用 * GA-8VT880-L 用

ソフトウェアのアプリケーション

このページには、Gigabyte および各国のパートナーから開発された付加価値のあるソフトウェアを紹介します。

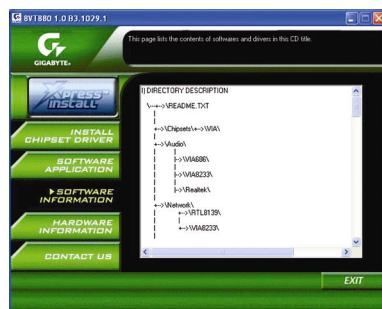


- Gigabyte Windows ユーティリティマネージャ(GWUM)
このユーティリティは Gigabyte アプリケーションをシステムトレイに統合します
- Gigabyte マネジメントツール(GMT)
コンピュータをネットワーク経由で管理できる便利なツールです
- EasyTune 4
オーバークロックとハードウェアモニタ機能を統合した強力なユーティリティです
- DMI ビューアー
システムの DMI/SMBIOS 情報を表示する Windows ベースのユーティリティです
- フェースーウィザード
BIOS ログを追加する新しいユーティリティです
- @BIOS
Gigabyte Windows ベースの BIOS をフラッシュする ユーティリティです
- Acrobat e-Book
Adobe からの便利なユーティリティです
- Acrobat Reader
Adobe からの普及したユーティリティで、.PDF ファイル形式の文書を読む取ります
- Norton インターネットセキュリティ(NIS)
ウイルス、広告防止の統合化ユーティリティです
- DirectX 9.0
Microsoft DirectX 9 のインストールで、3D ハードウェアアクセラレーションを可能にし、オペレーティングシステムの 3D パフォーマンスが改善されます。
- GigaRAID ユーティリティ(◆)
GigaRAID IT8212 用の RAID ユーティリティです

◆ GA-8VT880 Ultra 用 * GA-8VT880-L 用

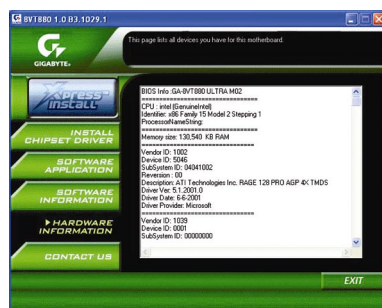
ソフトウェアの情報

このページには当 CD タイトルに収録されているソフトウェアおよびドライバの一覧が示されています。



ハードウェアの情報

このページには当マザーボード用のデバイス全てが示されています。



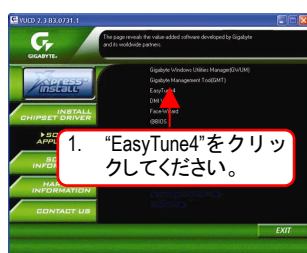
当社への御連絡

詳細は最後のページをご覧ください。

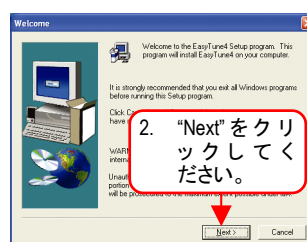


EasyTune 4 ユーティリティのインストール

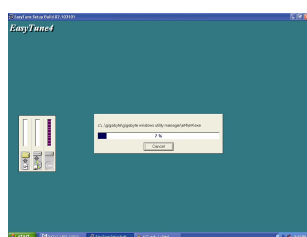
オーバークロックとハードウェアモニタ機能を統合した強力なユーティリティです



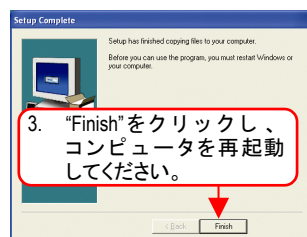
(1)



(2)



(3)



(4)



(5)



(6)

FAQ

下記は一般に尋ねられる質問を集めています。特定のモデルのマザーボードに関する一般的な質問については、<http://tw.giga-byte.com/faq/faq.htm> にアクセスしてください。

問 1 : BIOS 更新後、以前の BIOS で表示されていたオプションのいくつかが表示されません。なぜですか？

答 : 詳細オプションのいくつかは新たな BIOS バージョンでは非表示となっています。BIOS メニュー表示後、Ctrl と F1 キーを同時に押すと、これらのオプションが表示されます。

問 2 : コンピュータをオフにしてもキーボードや光学マウスのランプが消えないのはなぜですか？

答 : ボードによっては、コンピュータをシャットダウンしてもスタンバイ用の微小電流が存在しますので、ランプがついた状態になります。

問 3 : EasyTune™ 4 の機能を全部は使えないのはなぜですか？

答 : EasyTune™ 4 の機能一覧にあるものがあるかどうかはマザーボードのチップセットに依存します。チップセットが EasyTune™ 4 のある機能をサポートしていない場合、その機能は自動ロックされて使用できません。

問 4 : 起動 HDD を IDE3 や IDE4 に接続後、RAID 対応マザーボードに Win 2000 と XP 環境の RAID および ATA ドライバがインストールできません。なぜですか？

答 : まず、ドライバインストールの前に CD-ROM 内の幾つかのファイルをフロッピーディスクにコピーする必要があります。さらにインストール手順もある程度異なっています。それで当社ウェブサイト内の RAID マニュアルに記述されているインストール手順をご参考になるようお勧めします。(ダウンロードは http://tw.giga-byte.com/support/user_pdf/raid_manual.pdf から可能です。)

問 5 : CMOS のクリア方法は？

答 : ご使用のボードに CMOS クリア用ジャンパーがある場合は、マニュアル中の CMOS のクリア方法をご参照ください。お持ちのボードにそのようなジャンパーがない場合は、オンボードの電池を外してボード電圧を放電させることで CMOS がクリアできます。以下のステップをご参照ください：

ステップ：

1. 電源をオフにします。
2. マザーボードから電源コードを外します。
3. 電池を静かに外し、10 分ほど放置します(または電池ホルダーのプラス・マイナスピンを金属片で 1 分間ほどショートさせます)。
4. 電池を電池ホルダーに戻します。
5. マザーボードに電源コードをつなぎ、電源をオンにします。
6. Del を押して、BIOS に入り、Fail-Safe Defaults をロードします。
7. 設定を保存し、システムを再起動します。

問 6 : BIOS 更新後、システムが不安定になっているようですが、なぜですか？

答 : BIOS フラッシュ後は Fail-Safe Defaults (または BIOS Defaults) をロードするようにしてください。それでもシステムが安定しない場合は、CMOS をクリアして問題解決します。

問 7 : スピーカー音量を最大にしても小さな音しか出ないのはなぜですか？

答 : ご使用のスピーカーがアンプ内蔵かどうかご確認ください。そうでないなら、電源/アンプ付きスピーカーに取り替えてお試しください。

問 8 :別の VGA カードを装備するので、オンボード VGA カードを無効にしたいのですが、どのようにしますか？

答 :Gigabyte 製マザーボードは装着された外付け VGA カードを自動検出するので、オンボード VGA カードをマニュアルでオフにする必要はありません。

問 9 :IDE 2 が使用できないのはなぜですか？

答 :ユーザーマニュアルを参照し、フロント USB パネル上の USB 過電流ピンに、マザーボードパッケージ付属以外のケーブルを接続していないかご確認ください。もしケーブルがマザーボード付属品以外のものなら、それを外し、このピンには付属品以外のケーブルを接続しないようにしてください。

問 10 :システム起動後、コンピュータから断続的にビープ音が聞こえることがあります。このビープ音にはどんな意味がありますか？

答 :下記のビープ音コードはコンピュータに生じている問題を判別するのに役立つでしょう。ただし、これらは参照用のみです。状況は実際のケースにより異なります。

→ AMI BIOS ビープコード	→ AMI BIOS ビープコード AWARD BIOS
* システム起動に成功した場合はコンピュータは短くビープと鳴ります。	短く 1 回 : システム起動成功
* ビープコード 8 以外は、通常起動不能となります。	短く 2 回 : CMOS 設定エラー
ビープ音 1 回 リフレッシュエラー	長く 1 回短く 1 回 : DRAM またはマザーボードエラー
ビープ音 2 回 パリティエラー	長く 1 回短く 2 回 : モニタまたはディスプレイカードエラー
ビープ音 3 回 ベース 64K メモリエラー	長く 1 回短く 3 回 : キーボードエラー
ビープ音 4 回 タイマーエラー	長く 1 回短く 9 回 : BIOS ROM エラー
ビープ音 5 回 プロセッサエラー	連続した長いビープ音 : DRAM エラー
ビープ音 6 回 8042-ゲート A20 エラー	連続した短いビープ音 : 電源エラー
ビープ音 7 回 プロセッサ割り込み除外エラー	
ビープ音 8 回 ディスプレイメモリアード/ライトエラー	
ビープ音 9 回 ROM チェックサムエラー	
ビープ音 10 回 CMOS シャットダウンレジスタリード/ライトエラー	
ビープ音 11 回 キャッシュメモリアー	

問 11 :SATA HDD から RAID または ATA モードで起動するよう BIOS で設定する方法は？

答 :以下のように BIOS を設定します：

1. Advanced BIOS features → SATA/RAID/SCSI boot order: "SATA"
2. Advanced BIOS features → First boot device: "SCSI"
3. Integrated Peripherals → Onboard H/W Serial ATA: "enable"

その後、SATA モードに関しては、Serial ATA function という項目から RAID モードでは"RAID"、通常の ATA モードでは"BASE"に設定します。

問 12 :RAID 機能対応のマザーボードで、IDE3, 4 から RAID または ATA モードで起動するよう BIOS で設定するにはどうしますか？

答 :以下のように BIOS を設定します：

1. Advanced BIOS features → (SATA)/RAID/SCSI boot order: "SATA"
2. Advanced BIOS features → First boot device: "SCSI"
3. Integrated Peripherals → Onboard H/W ATA/RAID: "enable"

その後、RAID モードに関しては、RAID controller function という項目から RAID モードでは"RAID"、通常の ATA モードでは"ATA"に設定します。

問 13 :IDE/SCSI/RAID カードから起動するよう BIOS で設定するにはどうしますか？

答 :以下のように BIOS を設定します：

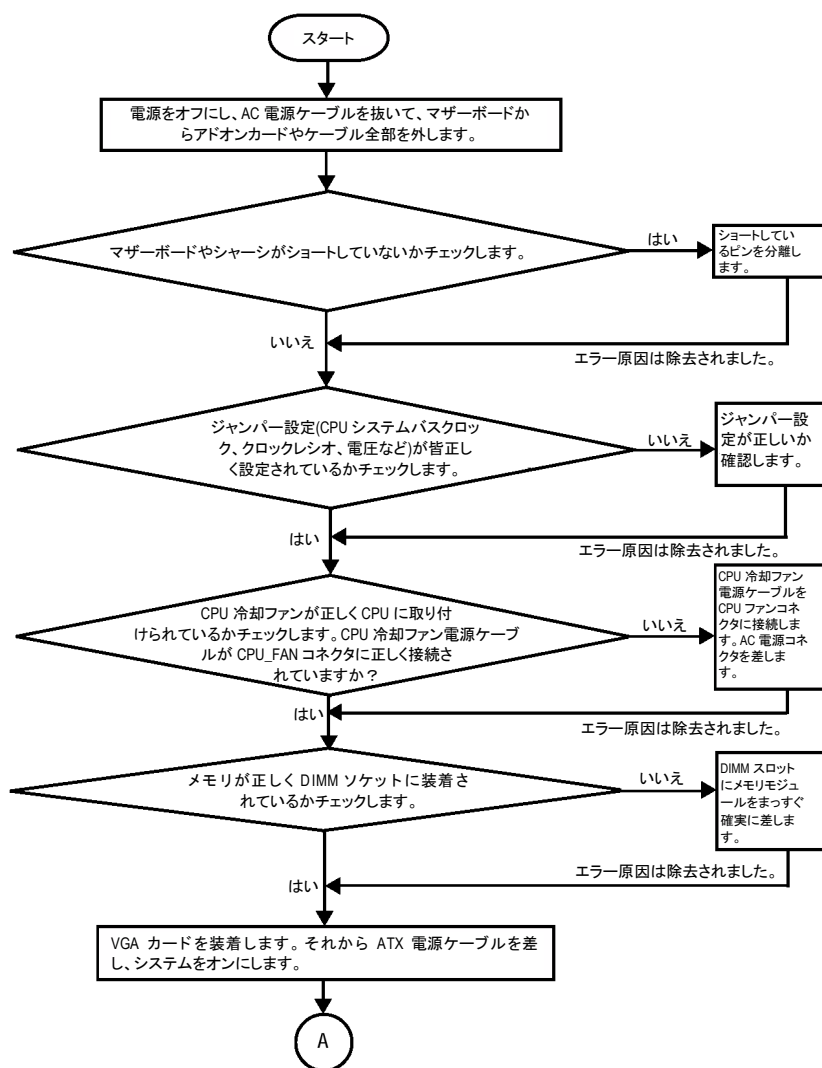
1. Advanced BIOS features → (SATA)/RAID/SCSI boot order: "SCSI"
2. Advanced BIOS features → First boot device: "SCSI"

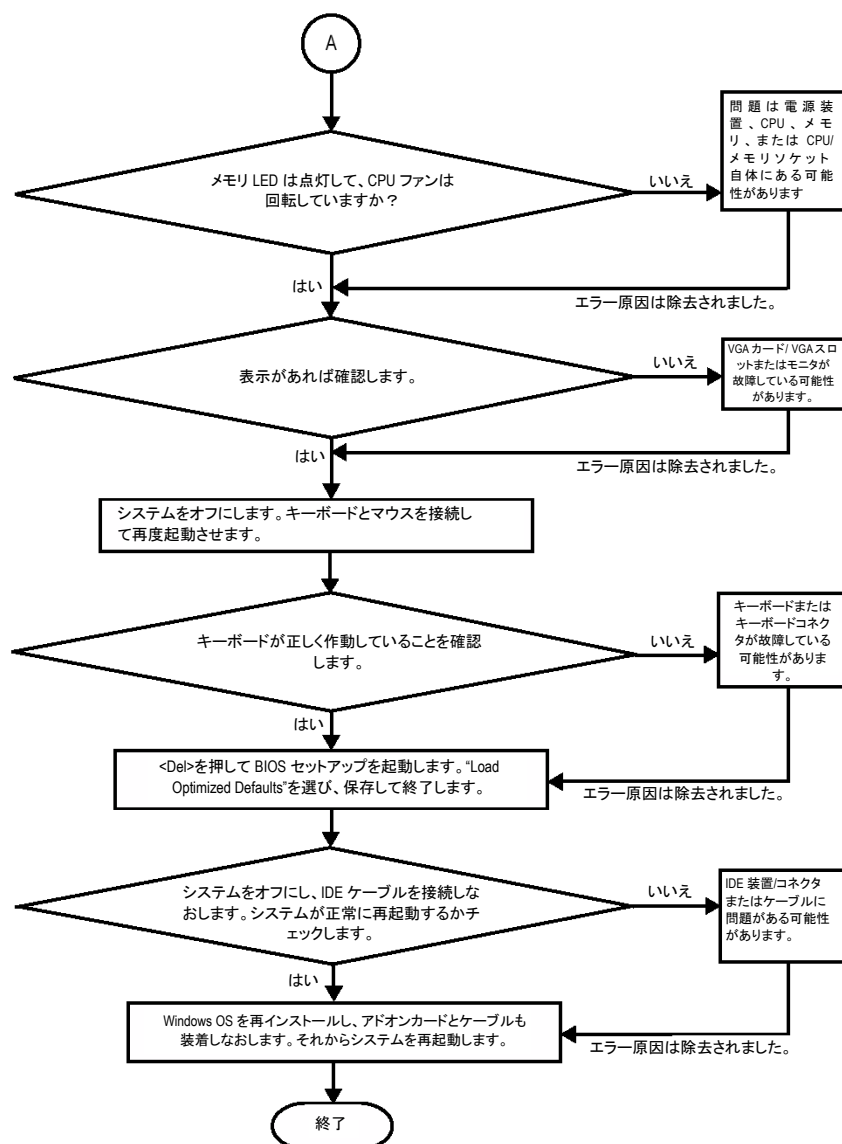
その後、RAID/SCSI BIOS からモード(RAID または ATA)設定します。

トラブルシューティング



起動中にトラブルが生じた場合は、下記のトラブルシューティングの手順に従ってください。





上記手順で問題が解決しない場合は、最寄の販売店または国内の代理店に御連絡ください。または、Gigabyte ウェブサイトテクニカルサポートゾーン (<http://www.gigabyte.com.tw>)へのメールお問い合わせによりご質問ください。迅速に対応策をお知らせします。

テクニカルサポート/RMA シート

お客様/国:	会社:	電話番号:
連絡先:	E メールアドレス:	

モデル名/ロット番号:	PCB バージョン:
BIOS バージョン:	O.S./A.S.:

ハードウェア設定	Mfs.	モデル名	サイズ:	ドライバ/ユーティリティ:
CPU				
メモリーメーカー名				
ビデオカード				
サウンドカード				
HDD				
CD-ROM / DVD-ROM				
モデム				
ネットワーク				
AMR / CNR				
キーボード				
マウス				
電源装置				
その他デバイス				

トラブルの説明:

略語表

略語表	意味
ACPI	アドバンスドコンフィギュレーションおよびパワーインタフェース(Advanced Configuration and Power Interface)
APM	アドバンスドパワーマネジメント(Advanced Power Management)
AGP	アクセラレーテッドグラフィックスポート (Accelerated Graphics Port)
AMR	オーディオモデムライザー(Audio Modem Riser)
ACR	アドバンスドコミュニケーションライザー (Advanced Communications Riser)
BIOS	基本入出力システム(Basic Input / Output System)
CPU	中央処理装置(Central Processing Unit)
CMOS	相補型金属酸化物半導体(Complementary Metal Oxide Semiconductor)
CRIMM	コンティニューイティールIMM(Continuity RIMM)
CNR	コミュニケーションおよびネットワークングライザー (Communication and Networking Riser)
DMA	ダイレクトメモリアクセス(Direct Memory Access)
DMI	デスクトップ マネジメント インタフェース (Desktop Management Interface)
DIMM	デュアルインラインメモリモジュール(Dual Inline Memory Module)
DRM	デュアルリテンション機構(Dual Retention Mechanism)
DRAM	ダイナミックランダムアクセスメモリ (Dynamic Random Access Memory)
DDR	ダブルデータレート(Double Data Rate)
ECP	拡張機能ポート(Extended Capabilities Port)
ESCD	拡張システム設定データ(Extended System Configuration Data)
ECC	エラーチェックと訂正(Error Checking and Correcting)
EMC	電磁氣的互換性(Electromagnetic Compatibility)
EPP	拡張パラレルポート(Enhanced Parallel Port)
ESD	静電放電(Electrostatic Discharge)
FDD	フロッピーディスクデバイス(Floppy Disk Device)
FSB	フロントサイドバス(Front Side Bus)
HDD	ハードディスクデバイス(Hard Disk Device)
IDE	インテグレートッドデュアルチャンネルエンハンスド (Integrated Dual Channel Enhanced)
IRQ	割り込み要求(Interrupt Request)

つづく.....

略語表	意味
IOAPIC	入出力アドバンスドプログラマブルインプットコントローラ (Input Output Advanced Programmable Input Controller)
ISA	工業規格アーキテクチャ(Industry Standard Architecture)
LAN	ローカルエリアネットワーク(Local Area Network)
I/O	入力/出力
LBA	論理ブロックアドレッシング(Logical Block Addressing)
LED	発光ダイオード(Light Emitting Diode)
MHz	メガヘルツ(Megahertz)
MIDI	ミュージカルインスツルメントデジタルインタフェース(Musical Instrument Digital Interface)
MTH	メモリトランスレーターハブ(Memory Translator Hub)
MPT	メモリプロトコルトランジスター(Memory Protocol Translator)
NIC	ネットワークインタフェースカード(Network Interface Card)
OS	オペレーティングシステム(Operating System)
OEM	受注メーカー(Original Equipment Manufacturer)
PAC	PCI A.G.P.コントローラ(PCI A.G.P. Controller) Controller
POST	電源投入時セルフテスト(Power-On Self Test)
PCI	ペリフェラルコンポーネントインターコネクト (Peripheral Component Interconnect)
RIMM	Rambus インラインメモリモジュール(Rambus in-line Memory Module)
SCI	特殊環境指示(Special Circumstance Instructions)
SECC	Single Edge Contact Cartridge
SRAM	スタティックランダムアクセスメモリ (Static Random Access Memory)

日本語

[illegible]

日本語

[illegible]

日本語

[illegible]

当社への御連絡

世界各地からこのページの情報を經由で私どもにご連絡ください。

・台湾

Gigabyte Technology Co., Ltd.
所在地 : No.6, Bau Chiang Road, Hsin-Tien, Taipei
Hsien, Taiwan, R.O.C.
TEL: 886 (2) 8912-4888
FAX: 886 (2) 8912-4004
E-mail:

私どもは絶えず、より速くより有効なメール
応答サービスを与えるように懸命に努力して
います。

何か質問があれば、以下のトピックスに分類
してください。

私どもの各部門はできるだけ早く問題を解決
しようします。皆様のご協力に感謝いたし
ます！

WEB Address: <http://tw.giga-byte.com>

・USA

G.B.T. INC.
Address: 17358 Railroad St, City of Industry, CA 91748.
Tel: 1 (626) 854-9338
Fax: 1 (626) 854-9339
E-mail: sales@giga-byte.com
support@giga-byte.com
WEB Address: <http://us.giga-byte.com>

・Germany

G.B.T. Technology Trading GmbH
Tel: 49-40-2533040
49-01803-428468 (Tech.)
Fax: 49-40-25492343 (Sales)
49-01803-428329 (Tech.)
E-mail: support@gigabyte.de
WEB Address: <http://de.giga-byte.com>

・Japan

Nippon Giga-Byte Corporation
WEB Address: <http://www.gigabyte.co.jp>

・U.K

G.B.T. TECH. CO. LTD.
Tel: 44-1908-362700
Fax: 44-1908-362709
E-mail: support@gbt-tech.co.uk
WEB Address: <http://uk.giga-byte.com>

・The Netherlands

Giga-Byte Technology B.V.
Address: Verdunplein 8 5627 SZ, Eindhoven, The
Netherlands
Tel: +31 40 290 2088
NL Tech.Support : 0900-GIGABYTE (0900-44422983,
£â0.2/M)
BE Tech.Support : 0900-84034 (£â0.4/M)
Fax: +31 40 290 2089
E-mail: info@giga-byte.nl
Tech. Support E-mail: support@giga-byte.nl
WEB Address: <http://nl.giga-byte.com>

・China

Shanghai Office
Tel: 86-21-64737410
Fax: 86-21-64453227
WEB Address: <http://cn.giga-byte.com>
GuangZhou Office
Tel: 86-20-87586273
Fax: 86-20-87544306
WEB Address: <http://cn.giga-byte.com>
Beijing Office
Tel: 86-10-82856054
86-10-82856064
86-10-82856094
Fax: 86-10-82856575
E-mail: bjsupport@gigabyte.com.cn
WEB Address: <http://cn.giga-byte.com>
Chengdu Office
Tel: 86-28-85236930
Fax: 86-28-85256822
WEB Address: <http://cn.giga-byte.com>